TDC

東京歯科大学同窓会会報

214

1983年8月

東京歯科大学同窓会会報　第214号

目　次

巻頭言……1
学長就任ご挨拶……2～3
お知らせ……4
本部短信……5
理事会のうごき……6
逝去会員……7
募金寄附者銘板除幕式……8～9
ゴルフ大会御案内……10
母校だより……11～13
先輩訪問……14～17
父兄会……18～19
学術交流団中国訪問……20～23
会員トピックス……24
支部のうごき……25～28
クラス会だより……29～35
すいどうばし……37～39
へんしゅうこうき……40

（表紙・カット　菊池　豊）

千葉校舎の庭(5)

千葉の校舎には緑の学園という言葉にふさわしく多くの樹木が植えられているが，近代的な建物に調和したいくつかの美しい庭が造られている。

これらを順次紹介してゆく。

図書館わきの円形洋風庭園

基礎・講義棟から図書館の入口へ向う時，その左手にヴェルサイユ宮殿の庭をふと想わせる白い石で囲まれた2つの円形の庭園がある。ここは，基礎棟，進学棟，図書館に囲まれた所に位置する。中央に円形の花壇を配置し，四季折々の花が咲く。円形に組まれた石囲いにはつつじやつたが植えられている。一般の通路から一段低くなっている中は冬はよき陽だまりとなり，また夏にこの縁石に腰をおろして木々の間をぬって来る風を楽しむ学生達の昼休みの風景は若者の大学キャンパスにふさわしさを感じることひとしおである。

〔グラビア撮影：松井恭平〕

巻頭言

中国でみた水道橋精神

副会長　伊　丹　一　男

このたび同窓会の訪中団に加わって中国で多くの同窓の諸君にお目にかかる機会を得た。これらの諸先生はいずれも新生中国で枢要な地位につき，指導者として活躍しておられる。久し振りに同窓会長をはじめ我々と会い，同窓諸氏はなつかしさを身体全体で表現し，心から歓迎して下さった。

恩師をはじめ水道橋生活の思い出に夜のふけるまで歓談はつきず，母校に対する深い愛情と信頼を示された。

そのなかで特に奥村，福島両元学長，高木現学長それに不幸にも病のためにハルビンに骨を埋めた戸塚，大熊の諸先生，また病院実習でご厄介になった当時の若き助手，副手の諸先輩に対しては涙を流さんばかりに感謝しておられた。

在中国の同窓各位は昭和10年から17年ごろまでの卒業が大部分である。

その頃はすでに日本と中国の間では不幸な事態が生じ，わが国は軍国主義へと急速に傾斜して，さぞかし不愉快な目に会われたことであったと思う。

遠く明治31年「日本牙大夫」として清国で歯科医療の経験のある血脇先生は，中国とは事をかまえるべきではなく，互いに協力して東洋の平和を確立したいと云う考えから中国の留学生諸君を遇してこられた。

この思想はわが母校の学風として受けつがれ，留学生諸君は真の水道橋精神を身をもって体験してこられた。

今やわが国は世界有数の経済大国であり，行き過ぎではあるまいかと思われる程の自由を享受している。

そう云う環境のなかで何気なく過している私どもは人間として，より大切な何ものかを忘れているのではあるまいか。

私は中国で図らずも水道橋精神が脈脈と生き続けているのを見て感激した。

学長就任ご挨拶

高木圭二郎

この度び，松宮誠一学長が３月31日をもってご勇退になり，不肖私が６月１日付をもって後任学長に選任されました。わが国最古の93年の光輝ある歴史を持つ東京歯科大学の学長に選ばれたことはこの上もない光栄であるとともに，その責任の重大さに身心ともにひき締る思いがいたしております。

東京歯科大学が高山，血脇の両先生によって創立されて以来，年毎に発展してきたことは，その間の血のにじむご苦労とそれを支えてきた同窓各位の熱いご支援があったればこそと思います。また，大学運営の基礎を確立された理事者の勝れた手腕にもよると深い感銘の念を禁ずることができません。

わが同窓会は明治28年に高山歯科医学院の第１回卒業式が行われ３名の卒業生が生れたときに，有志が協議して院友会を発足させたのがその端緒であると記録されております。爾来88年の星霜を閲しました。本年は人間でいえば米寿のお日出度い年にあたります。

この間のわが国の近代的歯科医学，医術の発展の歴史を顧みますと，それは先輩歯科医師たちの苦闘の歴史であり，とくに歯科医学教育については，当初封建的な徒弟制度に似た伝習形式がとられていましたが，それを近代的な歯科医学教育制度として確立するまでの労苦は筆舌に尽せぬものがあったことは，同窓各位のすでに周知のことでありましょう。そして，その茨の道を切り開いていったのは，私学のわが東歯同窓の先輩各位であったことも周知の事実であります。

現在，世界でも第一級の施設を誇る千葉校舎を鹿島俊雄理事長総指揮の下に完成し，さらに新たな構想で発展しようといたしております。その８代目の学長として就任し，さらにさらに本学を発展せしめることは，この厳しい時代に大きな困難を伴うことと思います。しかし，断固としてその困難に立ち向っていきたいと思います。

現代の大学は，一つの組織体として運営されております。したがって当然のことでありますが，教職員，同窓，父兄との間の相互信頼が大学運営の基調とならなければならないと考えます。私はその方針で運営していきたいと思います。同窓各位には，この点ご理解を賜り，ともに歩調を合せお力添え願いたいと切望いたしております。

終りに，重ねて同窓各位のご支援，ご協力を心から期待し，学長就任のご挨拶といたします。

略　歴

本　　籍　東京都新宿区四谷３丁目１番地10
現 住 所　東京都北区西ヶ原３丁目１番15号

1. 学　歴

昭和６年	東京府立第１商業学校卒業
同　10年	東京歯科医学専門学校卒業
同　35年	医学博士の学位授与(信州大学)

2. 職　歴

(一)東京歯科大学関係

昭和10年	東京歯科医学専門学校副手
同　11年	歯科医籍登録（第23492号）
同　11年—13年	東京歯科医学専門学校助手
同　38年—現在	東京歯科大学教授
昭和43年—53年	東京歯科大学社会歯科学研究室主任教授
同　46年—現在	学校法人東京歯科大学理事
同　52年—58年	東京歯科大学副学長

同　58年—同年　東京歯科大学学長職務代行
同　58年　東京歯科大学学長就任

（二）厚生省・その他

昭和13年—17年　厚生省予防局勤務
同　17年—20年　満州国立医科大学教授に任ぜられハルビン医科大学歯科医学部勤務
同　21年　内地上陸
同　21年—22年　日本歯科医師会嘱託
同　22年　厚生省医務局国立病院課勤務
同　23年　医務局歯科衛生課併任
同　31年　医務局医事課併任
同　33年　医務局歯科参事官
同　38年—同年　医務局歯科衛生課長

（三）他大学関係

昭和33年—38年　日本大学歯学部講師（非常勤）
同　33年　東京医科歯科大学歯学部講師（非常勤）
同　45年—現在　新潟大学歯学部講師（非常勤）
同　47年—現在　学校法人東北歯科大学評議員
同　47年—53年　学校法人松本歯科大学評議員
同　47年—54年　松本歯科大学講師（非常勤）
同　49年—現在　東北歯科大学講師（非常勤）
同　52年—53年　東北大学歯学部講師（非常勤）
同　54年—現在　九州大学歯学部講師（非常勤）
同　55年—現在　山形大学医学部講師（非常勤）

3. 文教関係

昭和51年—現在　財団法人私学研修福祉会評議員
同　54年　社団法人日本私立大学連盟財務・人事担当者理事者会議運営委員

4. 厚生関係

昭和18年—20年　満州国歯科医師考試委員
同　44年—46年　歯科医師試験委員
同　47年　日本歯科医師会企画調査室嘱託
日本歯科医師会企画調査室歯科学者連絡会議委員
同　51年　日本歯科医師会調査室部会委員
同　52年　日本歯科医師会歯科医療需要供給調査研究部会委員
同　54年—現在　医療関係者審議会委員
同　55年—現在　歯科医師国家試験K・V会議議長
同　55年—現在　医療関係者審議会歯科医師部会長
同　55年—56年　歯科医師国家試験検討委員会委員長

5. 学会関係

昭和35年—39年　東京歯科大学学会評議員
同　38年—現在　日本口腔衛生学会評議員・幹事
同　39年—現在　日本歯科医療管理学会理事
同　44年—現在　日本医史学会評議員
同　48年—現在　日本歯科医史学会理事
同　51年—52年　東京歯科大学学会監事
同　52年—58年　東京歯科大学学会副会長
同　58年—現在　東京歯科大学学会会長

6. 同窓会

昭和43年—48年　東京歯科大学同窓会理事
同　49年—現在　東京歯科大学同窓会監事

7. その他

昭和39年—現在　財団法人日本口腔保健協会理事
同　39年—現在　財団法人ライオン歯科衛生研究所理事
同　57年—現在　財団法人森田奨学育英会監事

お知らせ

○ TDC卒後研修セミナー '83プログラム

総合的な視点にたった歯科診療　加齢への対応〔Ⅳ〕　加齢に対応した歯科診療の実際

◇ 第7回〔昭和58年9月10日(土)〕

9：30～11：30　顎堤吸収への対応　平沼謙二（愛知学院大・歯・補綴）

12：30～13：30　高齢化社会における補綴のとりくみ方
—スウェーデンを中心として—　小宮山彌太郎（東歯大・補綴）

13：40～16：00　補綴診療の加齢をめぐる問題の現時点でのまとめ
関根弘（東歯大・補綴）

16：00～16：30　◇'84以降の展開　◇受講証の授与・会長挨拶

ところ　経団連会館14階経団連ホール
（地下鉄丸の内線・千代田線・東西線・三田線大手町駅・国電東京駅下車）

○ 第220回東京歯科大学学会総会

と　き　昭和58年11月5日(土)・6日(日)

ところ　東京歯科大学千葉校舎

○ 第12回同窓会全国ゴルフ大会

と　き　昭和58年11月11日(金)

ところ　袖ケ浦カントリークラブ袖ケ浦コース

なお，詳細は本号10頁に掲載してあります。また申し込み用紙は本号39頁を利用下さい。

○ 昭和58年度東京歯科大学同窓会評議員会・総会・懇親会

と　き　昭和58年11月13日(日)　午前10時

ところ　高輪プリンスホテル

昭和59年度東京歯科大学入学試験の御案内

1. 入学試験日

昭和59年2月1日(水)～2月2日(木)

2. 学科試験科目

英　語　英語B

数　学　数学（ⅠおよびⅡB）

理　科　物理（ⅠおよびⅡ），化学（ⅠおよびⅡ），生物（ⅠおよびⅡ）の3科目のうち2科目を試験場で選択

3. 入試要項は10月上旬から頒布する予定

本部短信

1) 役員出張，行事その他

5月18日　広報部委員会（編集）
21日　卒後研修セミナー（第4回）
21日　信越地域支部連合会総会
伊丹副会長，中久喜，池上理事出張
21日　東北地域支部連合会総会
河邊会長，板垣副会長，斎藤理事出張
21日　埼玉県支部総会　菊池理事出張
25日　卒後研修特別委員会（プログラム作成委員会）
27日　学術部委員会
28日　四国地域支部連合会総会
山脇副会長，津島，馬嶋理事出張
28日　静岡県支部総会
河邊会長，伊藤理事出張
28日　宮城県支部総会　板垣副会長出張
28日　全国歯科大学同窓，校友会懇話会
伊丹副会長，浜野，平理事出張
6月1日　卒後研修特別委員会（プログラム作業小委員会）
6日　卒後研修特別委員会（プログラム作業小委員会）
14日　役員打合会（在京副会長，総務担当常任理事）
15日　広報部委員会（企画）
16日　卒後研修特別委員会（プログラム作成委員会）
18日　卒後研修セミナー（第5回）
18日　中国地域支部連合会総会
山脇副会長，杉山，田本理事出張
21日　常任理事会
25日　秋田県支部総会　板垣副会長出張
25日　一期会卒業30周年記念式典
河邊会長列席
26日　広島県支部総会　山脇副会長出張
27日　父兄会歓送迎会（新旧名誉会長，参与，役員）　河邊会長出席
6月29日　大学，退任松宮前学長，新任高木学長歓送迎会　河邊会長他役員出席
7月2日　福島県支部総会　板垣副会長出張
4日　卒後研修特別委員会（全体委員会）
5日　大学教員海外出張者激励会
河邊会長出席
11日　卒後研修特別委員会（プログラム作成委員会）
13日　広報部委員会（編集）
14日　卒後研修特別委員会（プログラム作成委員会）
16日　卒後研修セミナー（第6回）
16日　同窓会創立80周年記念募金応募者銘板除幕式　河邊会長他役員等列席
16日　理事会（於千葉校舎第1会議室）

2) 支部長交替

室蘭支部（新）佐々木　寿（昭27. 3卒）
前田　忠蔵（昭10. 3卒）
昭和58年4月1日付交替
静岡県支部（新）萩原　弘士（昭16. 12卒）
朝浪　惣一（昭10. 3卒）
昭和58年5月29日付交替
江戸川支部（新）宝田　忠（昭28. 3卒）
田中　規正（昭23. 3卒）
昭和58年6月15日付交替

旧支部長各位には，ご退任に際し，本会事業発展のためご尽力をいただいた功績に対し感謝状と記念品を贈呈いたしました（昭和57年度から）。

3) 罹災会員

鹿児島県支部　有木光雄（昭48. 3卒）
（鹿児島県加世田市）
昭和58年6月21日床上浸水
（梅雨前線による集中豪雨，加世田川決壊のため）

理事会のうごき

第３回理事会昭和58年５月14日(土)午後１時，於西別館会議室，出席者25名，議長板垣副会長，一部安嶋副会長（会長の指示による）主な会務報告並びに協議事項は次のとおりです。

1. 会務報告

(1) 同窓会創立80周年記念募金応募者銘板除幕式（仮称）を７月16日(土)午前11時から挙行するため，終了後引続き理事会を千葉校舎内において開催決定。

除幕式列席者の案内については，同窓会役員，地域支部連合会会長，同窓会創立80周年記念募金委員会委員等を大学当局に申し入れる。

(2) 全国歯科大学同窓，校友会懇話会は，国立私立歯科大学，歯学部の同窓，校友会で組織され，案件について意見開陳相互の理解を深める会合であり，この度５月28日開催の同窓，校友会懇話会は，大阪歯科大学同窓会が担当，協議題は「歯科医師の卒後研修（卒後直後の研修）について」であるため，副会長と学術担当常任理事が参加する旨説明，了承。

(3) 昭和57年度経常部，特別会計（同窓会基金，血脇記念基金，共済基金，名簿積立金，退職積立金）および特別経理（卒後研修セミナー，卒後研修セミナー積立金）収支決算（案）について次回７月16日理事会に提案，審議する。了承

(4) 昭和59年度経常部予算編成に関連事項である会費については，次回の理事会に諮るが，会計部担当常任理事として現行12,000円（昭和58年度改定）を値上げする必要はないと考えられる旨説明，了承。

(5) 昭和59年度経常部予算編成にあたり各部の予算要求を来る７月末日までに会計部担当常任理事に提出すること，了承。

(6) 会員名簿作製作業進行状況について次のとおり報告，了承。

① 会員名簿資料（個人原票）については，本会会報第212号(昭和58年４月号）に同封，去る５月９日に8,033人の会員に対し発送した。

② 各クラス会代表に対しクラス会員の住所等の確認，依頼文書等を５月末日頃に発送予定。

③ 推薦会員および本学大正10年以前の卒業者に対し重復するが６月初旬頃別途往復ハガキにて住所等の確認予定。

(7) 本会団体所得補償保険については，安田火災海上保険株式会社と契約を締結，昭和57年３月１日より加入を開始，本年３月１日をもって１ヵ年を経過した。この期間中無事故であった加入会員に対し支払保険料の20%の金額を無事故返戻金として加入会員各位の保険料振込指定口座に５月14日振込まれる旨報告

2. 協議事項

(1) 会則等検討委員会の答申書(４月16日提出）の取扱について

この件について審議の結果，会則等改正委員会を設置する。委員の構成については次回理事会（７月16日）に諮る。

(2) 推薦会員の入会について

本会会則第５条第１項第１号後段および施行細則第１条に基づき，慎重に審議の結果，推薦会員として下記２名の入会を承認。

埼玉県支部　猪狩行男氏(東北歯大　昭53.3卒)
武蔵野支部　敦賀実人氏(松本歯大　昭54.3卒)

(3) 会費および共済負担金の納入延期について

本会会則第８条第２項に基づき，関係支部長より申請のあった件について審議の結果，次の会員の会費および共済負担金を昭和58年度から２ヶ年間納入延期（但し２ヶ年経過後再度支部長から申請あった場合再度審議）を承認。

富山県支部　吉岡達夫氏（昭18.9卒）
同　　小山哲夫氏（昭31.3卒）
町田支部　石黒夫雄氏（昭11.8卒）

(4) 昭和58年度卒後研修セミナー収支実行予算（案）について

本年度見積予算に対し受講者が増加したので受講料収入も増となり，収支の一部修正案を説明，原案通り承認。

下記の会員が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表し心からご冥福をお祈り申し上げます。　（敬称略　届出順）

●昭 12 卒	小林覚一（68才）	急性心不全	58. 4.25
町田支部	〒194　町田市玉川学園2—1—14		
●大 15 卒	松野　新（79才）	胆嚢炎	58. 4.27
札幌支部	〒061-21　札幌市南区澄川4条7丁目		
●昭 3 卒	湯原与一（79才）	心不全	58. 2. 1
茨城県支部	〒300-03　茨城県稲敷郡阿見町青宿新町687-4		
●昭 3 卒	鹿島健太郎（76才）	脳内出血	58. 5. 4
北多摩支部	〒184　小金井市本町5—38—32		
●推薦	高柳克己（90才）	急性心不全	57.11.23
栃木県支部	〒329-14　栃木県塩谷郡喜連川町大字喜連川4366		
●昭 25 卒	矢島　力（54才）	肝硬変	58. 5. 8
北多摩支部	〒190　立川市富士見町5—19—22		
●昭 10 卒	兵藤正徳（70才）	脳血栓症	58. 5.13
愛媛県支部	〒799-35　愛媛県喜多郡長浜町大字出海2—9		
●昭 5 卒	長内良夫（79才）	老衰	58. 5.11
青森県支部	〒039-41　青森県上北郡横浜町字館ノ後72		
●推薦	飯島　薫	直腸癌	50. 7. 7
千葉県支部	〒289-22　千葉県香取郡多古町多古456		
●昭 2 卒	竹村貞正（78才）	胃癌	58. 5.14
郡馬県支部	〒370　伊勢崎市上植木本町2721		
●昭 3 卒	小山君親（77才）	脳血栓症	58. 5.22
福島県支部	〒977　福島県田村郡三春町字大町122		
●推薦	黛　誉治（79才）	急性心不全	58. 5.22
目黒支部	〒152　目黒区中根1—11—8		
●昭 25 卒	富田　猛（55才）	肺炎	58. 5 24
尾張支部	〒456　名古屋市熱田区六番町3—48		
●昭 15 卒	佐々木　学（65才）	心不全	58. 6. 2
青森県支部	〒033　三沢市中央町2—6—25		
●推薦	石田直徳（85才）	老衰	58. 6. 3
山口県支部	〒745　徳山市若宮町2-1		
●推薦	清水栄之助（80才）	肺性心	58. 5. 7
兵庫県支部	〒654　神戸市須摩区大手町3—1—13		
●推薦	麻野晋三（89才）	肝臓癌	58. 6. 9
栃木県支部	〒326　足利市通5—3193		
●昭 16 卒	糸岐茂喜（66才）	肺炎	58. 6. 1
大阪府支部	〒540　大阪市東区徳井町2—17		
●昭 11 卒	今永英文（70才）	膀胱癌	58. 6. 1
京都府支部	〒612　京都市伏見区菊屋町836—1		

○本会名誉会員，元東京歯科大学学長　杉山不二先生は去る７月16日心不全のためご逝去されました。
○本会名誉会長　井上　眞先生は去る８月８日急性肺炎のためご逝去されました。

○元母校進学課程教授　嶺脇四郎先生は去る７月18日脳出血のためご逝去されました。

東京歯科大学施設整備資金募金寄附者銘板
除幕式おごそかに挙行さる

梅雨のまだあがらない7月16日（土）前夜来の雨があがり青空さえもみえる午前11時，千葉校舎厚生棟前広場に於いて，金竹副学長の司会により銘板の除幕式が神式に従い厳しゅくにとり行われました。

今回の除幕式には同窓会，父兄会の幹部及び募金に御尽力いただいた方々の代表者，そして法人並びに大学関係者など60余名が参列しました。その模様を御報告させていただきます。

同窓会創立80周年記念事業の一環として始められました千葉校舎建設資金の一部にと10億円の目標をかかげて募金活動を開始しましたところ，全国同窓会員の絶大な御協力により目標を突破，その額10億8000万円になりました。御協力いただいた方々は実に4,661名です。緑の募金にはじまりこの募金に卒先して活動された前会長井上眞先生の御熱意は特筆すべきものがあります。その後会長を受けつがれた河邊現会長も全国同窓に向って精力的な御努力をされました。

学校法人東京歯科大学は今回の募金に応じて下さった各位に対し心から感謝し，大学建学に対する一層の団結と，さらにたゆまぬ努力を強めることを願い「我らが誇る愛校の精神」を永遠に記念する為に，ここに「東京歯科大学施設資金募金寄附者銘板」を設置した次第であります。そしてその除幕は鹿島理事長，高木学長，河邊同窓会長が共に綱を持ち力強く引くと写真にありますような銀色の銘板がきらりと光って私達の眼前にあらわれました。巾50cm，長さ2m60cm，ステンレス製，約2万字を写真製版エッチングしたものであります。

式典にひきつづき行われました直会(なおらい)の席上，高木学長より詳細な経過報告があり，続いて鹿島理事長および河邊同窓会長の御挨拶があり，全国同窓の力を共に喜び，さらに水道橋校舎再建に関する力強い決意が披露されました。理事長，学長，同窓会長による鏡開きをした祝酒が木の香も新しい升に注がれ，佐藤新一法人理事の乾盃の音頭で祝宴が開始されました。終宴後，参列者は直会会場の厚生棟からの帰路広場にある銘板に再び立寄り，まだ新らしい千葉校舎を見上げながら東京歯科大学の益々の発展を喜びあいました。

東京歯科大学施設整備資金募金寄附者
銘板除幕によせて

学校法人東京歯科大学理事長　鹿　島　俊　雄

昭和46年9月28日開催の第360回法人理事会での稲毛校地取得についての審議に始まり，昭和49年9月4日に土地の登記を完了し，同校地の利用に関する審議を重ね48年には基本計画を決定した。その後大学における稲毛校舎建設計画委員会の発足があり，国内および海外歯科大学の視察，稲毛キャンパス計画案の承認を経て，学内稲毛校舎建設調査委員会を発足させ，基本設計の完了をみた。ここに至り，東京歯科大学稲毛校舎建設実行委員会が発足し，鹿島建設株式会社による施工を決定し，昭和54年3月2日には地鎮祭および起工式が行われた。

この間にあって，昭和50年11月15日の東京歯科大学同窓会第81回評議員会・総会において東京歯科大学同窓会80周年記念募金についての提案が承認され，昭和51年10月に同窓会80周年記念募金研究特別委員会が開催された。昭和52年11月12日同窓会評議員会・総会において同窓会80周年記念募金事業の実施が決定した。

この募金に関連した寄附金に対する控除の適用を採択し，募金事業の主体を学校法人東京歯科大学として東京歯科大学施設整備資金募金とし，これを同窓会創立80周年記念事業の一環として展開することとなった。

井上　眞同窓会長時代に大綱を決定していた本事業は次期河邊清治会長に引き継がれ，同窓会を中心とした10億円を目標の募金活動が開始された。開始は昭和54年7月10日であった。

全国同窓各位の母校愛は目標額10億を突破させ，最終的に募金協力者4,661名10億8千万円の結果をみることになった。この施設整備資金は稲毛の千葉校舎建設費の一部に加えられて建設が行われ，昭和56年7月15日には校舎の引渡しが行われた。そして竣工式とその祝賀会が昭和56年11月7日に行われたのは同窓各位の記憶にまだ新しいことと思う。

この募金に関連した募金実行委員各位のご協力と同窓各位のご熱意に対しあらためて感謝申し上げるものである。この感謝の気持を表し，また同窓の母校愛を永く記念すべく寄附者芳名記念銘板を製作し，千葉校舎の一隅に記録として残すこととした次第である。

昭和54年3月の起工式から昭和56年7月の校舎の引渡し，そして今回の銘板の製作とその除幕式をもって千葉校舎建設に関する全てが完了したことを思い感慨一入のものがある。全国の同窓ともども東京歯科大学の益々の発展を祈念してやまない。

尚現在，東京歯科大学水道橋校舎改築についての慎重な検討を加えつつあるが，今後共同窓各位のなお一層のご理解とご協力をお願いする次第である。

銘板除幕式祝詞

渚に寄する波の音も遙に聞こゆる
真砂の原に装ひも美しく築き建て
給わく東京歯科大学千葉校舎の広
場を今月の斉場と祓ひ清めて据奉
る神籬に招ぎ奉り鎮め奉る掛まく
も畏き産土大神匠祖神屋船大神祓
戸大神達の大前に鴉森八幡神社神
主奇しき縁に結ばれて今日の斉主
となり恐み恐みも向さく是の学校
法人東京歯科大学は是の処に千葉
校舎を新に築き建むと昭和五十四
年三月二日に匠業起し給ひしより
昭和五十六年八月三十日装も美し
く築き建て整え終えぬるも四六六
一名の人達の十億八千万円に昇る
清き尊き寄附による業とも称えら
る可きにて其の香具はしき御名を
永久に留めむと是の処に東京歯科
大学施設整備資金募金寄附者銘板
を据え今日の生日の足日の玄辰に
除幕の式を仕へ奉り是の由告げ奉
らくを平けく安けく享け聞召し今
も将来も是の尊き勲功を語り継ぎ
言い継ぎ行きて其の勲功を東京歯
科大学の礎とし東京歯科大学の将
来を守り導き幸へ給えと恐み恐み
も向す

第12回同窓会主催全国ゴルフ大会御案内

本会主催ゴルフ大会は，昨年と同様千葉県同窓有志の御世話に依り，下記日程にて開催致すことに決定致しました。同窓会評議員会・総会の日程にあわせて行いますので，全国各地からの参加をお待ちして居ります。

期　　日　昭和58年11月11日（金）

会　　場　袖ケ浦カントリークラブ・袖ケ浦コース　千葉市辺田町567

競技方法　18ホールストロークプレイ（変則キャロウェイ方式）

会　　費　26,000円（グリーンフィー)(キャディフィー）（昼食）（パーティー代・ロッカー代・賞品代を含む）

申込期日　9月10日より9月30日まで，但し先着180名で受付を締切ります。

申 込 先　東京歯科大学同窓会事務所内
ゴルフ大会係宛
〒101 東京都千代田区三崎町2-9-18
TEL　03（264）4859

申込方法　39頁刷り込みの参加申込書に所定の事項を記入のうえ，会費26,000円を添えて，現金書留にてお送り下さい。
尚参加申込は会員毎にすること，一括申込み及び電話でのお申込みは認めません。但し申込後やむを得ない事情により欠席する場合は，10月31日までに同窓会事務所内ゴルフ大会係宛連絡のあった会員に限り10,000円を返金致します。

注意事項　(1)　本大会についての詳細（スタート，組合せ等）は，大会実施要項として10月下旬にお送り致します。
(2)　その他ご質問，お問合せ等は下記同窓会理事にお願い致します。
杉山邦夫　0473（34）6272
浜野伸彦　0472（27）4922

“おわび”

前号（6月号）で開催日を昭和58年11月12日（金）とお知らせ致しましたが11月11日（金）の誤りなので訂正致します。

ご　挨　拶

同窓会会長　河　邊　清　治

本年も全国ゴルフ大会を上記の要領で開催するに当り，例年の如く全国各地でご活躍のゴルフ愛好の皆様と親しく話し合うことができる楽しいひとときを想うと今から開催日を心待ちにしております。

趣味を通して全国の同窓が熟年，若人を問わず一同に会してプレーに専念し，日頃の診療の忙しさを緑の中に忘れている姿を拝見する度にこのゴルフ大会の意義深さを感じております。

歯科界をとりまく今日のきびしい社会情勢を考え，今後の前進の為にも，我々は常に自己研鑽に務める事は勿論の事，自己の健康維持にも充分留意せねばなりません。その為にもどうぞ多数の参加をお待ちしております。

今後の益々の盛会と同窓各位のご繁栄を祈念します。

大会開催に当り関係各位，並びに大学当局のご協力に対し，心から感謝申し上げます。

母校だより

高木圭二郎副学長学長就任
母校新人事発令さる

昭和58年5月31日をもって任期満了の学長職については，学校法人東京歯科大学寄附行為細則により，高木圭二郎教授が学長，金竹哲也教授が副学長，中久喜喬教授が千葉病院長，関根弘教授が水道橋病院長，長谷川正康教授が大学院歯学研究科長，羽賀通夫教授が歯科衛生士専門学校長にそれぞれ選任された。

なお，任期は昭和58年6月1日より昭和61年5月31日までの3ヵ年間である。

これに伴い新しい人事が6月1日付で発令された。

学長	高木圭二郎
副学長	金竹哲也
学監	高橋庄二郎
千葉病院長	中久喜喬
〃 副院長	佐藤徹一郎
水道橋病院長	関根弘
〃 副院長	高橋一祐
市川病院長	森雅文(就任中)
〃 副院長	川島康(〃)
大学院研究科長	長谷川正康
歯科衛生士専門学校長	羽賀通夫
図書館長	見明清
〃 副館長	中山誠
〃 分室長	森雅文
教務部長	高添一郎
〃 副部長	淺井康宏
〃 〃	仁田原一郎
〃 〃	住井俊夫
学生部長	石川達也
〃 副部長	河野静也
〃 〃	山口秀晴
〃 〃	下野正基
大学院教務部長	町田幸雄
〃 副部長	金子譲
大学院学生部長	瀬端正之
〃 副部長	藥師寺仁
研究部長	坂田三称
〃 副部長	金光秀明
〃 〃	黒柳錦也
国際渉外部長	高添一郎
〃 副部長	金子譲
〃 〃	奥田克爾
研修部長	淺井康宏
〃 副部長	腰原好
〃 〃	片桐重雄
渉外部長	能美光房
対外連絡部長	鈴木和男
学術出版部長	堤璋二
〃 歯科学報主任	淺井康宏
〃 欧文紀要主任	高江洲義矩
〃 大学広報主任	堤璋二
共用機械管理部長	西村正雄
〃 DGMA主任	岸正孝
〃 XMA主任	名波智章
〃 SEM主任	伊藤彰人
〃 AEM主任	柳沢孝彰
〃 RI主任	坂間久之祐
環境安全衛生部長・委員長	鈴木芳太郎
健康管理センター主任・委員長	和田知雄
動物舎管理部長・委員長	山村武夫
臨床基礎実習委員長	淺井康宏
臨床教育委員長	佐藤徹一郎
教育用共用機器管理委員長	見明清
視聴覚教育システム管理委員長	町田幸雄

母校だより

基礎教授連絡会幹事	西村正雄	歯科放射線科部長	黒柳錦也
臨床教授連絡会幹事	石川達也	歯科麻酔科部長	中久喜喬
教養科目協議会幹事	山本又雄	臨床検査室長	中久喜喬
市川病院教育主任	片桐重雄	総合予診室長	黒柳錦也
保存科部長	石川達也	中央技術室長	溝上隆男
口腔外科部長	野間弘康	中央消毒室長	野間弘康
補綴科部長	関根弘	歯科衛生士専門学校主事	高江洲義矩
矯正科部長	瀬端正之	教務部長	槇石武美
小児歯科部長	町田幸雄	学生部長	大久保信男

母校法人理事に斉藤，中久喜両氏就任

学校法人東京歯科大学の第142回定例評議員会および寄附行為第8条第3項に規定する理事の選任に関する会合が去る5月31日ホテル国際観光に於いて開催された。故河村　弘理事の後任として本学昭和4年卒の斉藤静三氏が，また，松宮誠一常務理事の辞任により本学千葉病院長の中久喜喬氏が，新理事としてそれぞれ6月1日付就任された。

○第218回東京歯科大学学会（例会）開催

昭和58年3月5日（土），午前9時30分から，千葉校舎第1，第2教室において一般講演45題と第2，第3セミナー室において示説7題が行われた。

また午後2時30分からは，第1教室で町田幸雄教授（小児歯科学）の『乳歯抜歯後における歯槽部の成長発育とその臨床応用』と田熊庄三郎教授（病理学Ⅰ）の『歯の形成と構造と破壊―電顕観察35年―』と題する特別講演が行われた。

なお実習講義棟のラウンジにおいては，歯科商社などによる展示・即売も催され，盛会のうちに終了した。

○昭和58年度助手（本学新卒者）採用者決定

本学新卒者を対象とし，2月1日（火）から23日（水）まで募集が行われた助手の採用者が3月10日（木）に決定した。氏名は下記のごとくであり，5月1日付けで採用される。

氏名	講座名	氏名	講座名
安井　一男	薬理	新谷　益朗	法歯
星　和江	小児歯科	佐草　徳子	小児歯科
大多和由美	〃	武石　純子	〃
松本　小織	〃	渡辺　美紀	歯科麻酔
武井　利夫	補綴Ⅰ	小林　慶太	補綴Ⅰ
野島　春夫	歯科放射線		

○昭和58年度特別研究生合格者決定

昭和58年2月1日（火）より23日（水）までの間に応募のあった本学新卒者の特別研究生合格者が決定し，3月10日（木）に発表された。氏名は下記のごとくである。

氏名	講座名	氏名	講座名
長井　寿哉	保存Ⅰ	鳥居　一也	補綴Ⅱ
原　泰司	〃	佐藤　一夫	補綴Ⅱ
真中美恵子	〃	石川　伸一	〃
千葉　緑	保存Ⅱ	唐鎌　正明	〃
大坪　慶子	〃	原　茂	〃
長塚　友子	〃	柳川　敏夫	補綴Ⅲ
田村知津子	保存Ⅲ	兵藤　広一	〃
神山　裕充	〃	関田　京子	〃
太田千枝子	〃	久保木裕子	矯正
佐藤　隆	〃	石川　珠民	オーラルメディシン
関川　嘉昭	口外Ⅰ	亀井　達雄	〃
原田　康	〃	栗田　文子	〃
前川　一彦	〃	尾崎　卓弘	〃
西垣　篤正	〃	間中　章	水道橋病院（歯科学）
米津　博文	口外Ⅱ	椋棒　正樹	〃
松崎　英雄	〃	大塚　勝仁	〃
橋本　和則	〃	森田　一郎	〃

○第2回顎変形症研究会開催

昭和58年3月20日（日），東京歯科大学講堂（千葉校舎）において，第2回顎変形症研究会が開催された。午前9時20分から45題の一般講演，ビデオによる示説7題が行われ，成功裡に午後5時閉会した。

○大学院セミナー開催

近年歯科全般にわたり咬合の問題が注目を集めており，『咬合に関する最近の考え方』と題する大学院セミナーが数回にわたり開催されるはこびとなった。第1回セミナーは，3月23日（水）午後4時から千葉校舎第2教室で，羽賀通夫教授（補綴学Ⅱ）を講師に招き開催された。町田幸雄大学院研究科教務・学生部長の司会，金竹哲也学監・大学研究科長の挨拶につづき，約2時間の講演が行われ，大学院生および教職員約150名の参加のもと盛会に終了した。

○市川グランド野球場，千葉校舎グランド整備竣工

かねてより学生会野球部より要望のあった市川グランド野球場の改修整備工事ならびに雨天後の排水に問題のあった千葉校舎トラックおよびフィールドの改修整備工事は，1月から3月にかけての学生休暇中を利用し実施された。両工事の完了にともない，体育の授業や課外活動に際し，従来以上に快適な利用が可能となった。また千葉校舎グランド利用者から，グランド内よりみえる場所に時計を設置してほしいとの希望があったところから整備工事の一環として時計塔が設置された。時計は地上5mの位置に3面に向って設置されており，グランド内のいずれからもみることが出来るようになっている。

○人　事

退　職	学長教授	松宮　誠一		58. 3. 31
	助教授	後藤　譲治	（水病小児歯）	58. 3. 31
	講　師	森　国和	（水病口外Ⅱ）	58. 3. 31
	〃	須田　希	（水病小児歯）	58. 3. 31
	〃	細矢由美子	（小児歯）〃	〃　〃
	〃	松原　秀憲	（補　Ⅱ）〃	〃　〃
	〃	島　秀一	（保　Ⅰ）〃	〃　〃
	〃	広瀬　守	（補　Ⅱ）〃	〃　〃
	助　手	国分　敏行	（補　Ⅱ）〃	〃　〃
	〃	八百枝正樹	（保　Ⅱ）〃	〃　〃
	〃	亀井　正典	（保　Ⅲ）〃	〃　〃
	〃	笠井　俊一	（保　Ⅱ）〃	〃　〃
	〃	長内　幸一	（口外Ⅰ）〃	〃　〃
	〃	松崎　正信	（矯　正）〃	〃　〃
	〃	青木　篤敬	（水病歯科総合）	58. 3. 31
	〃	矢島　俊助	（水病歯科総合）	58. 3. 31
	〃	水谷　裕	（水病保Ⅲ）	58. 3. 31
	〃	嶽崎　晃一	（オーラルメディシン）	58. 3. 31
	〃	森田　欣吾	（補　Ⅱ）〃	〃　〃
	〃	安倍　尚之	（補　Ⅰ）〃	〃　〃
	〃	吉田　正	（水病補Ⅰ）	58. 3. 31
	〃	高橋　庸	（補　Ⅲ）〃	〃　〃
	助手補	藤田　早苗	（補　綴）〃	〃　〃
休職期間延長	講　師	杉山　直	（歯　放）	58. 3. 1～58. 6. 7
採　用	助　手	西山　潔	（水病歯科総合）	58. 3. 1
	〃	平野　則之	（水病歯科総合）	58. 3. 1

（大学広報第87号より抜粋掲載）

先輩訪問

闊達な自由主義学究

正木　正先生（T.12年卒）を訪ねて

今回の先輩訪問は，昭和25年卒迄の会員には恩師であり，それ以後の卒業の方々も，色々な場で御指導を受けた本校大正12年卒の正木正先生を杉並の御自宅に訪問致しました。先生は東歯生えぬき，花沢門下から慶応，日大，歯科評論と研究業績は云うに及ばず，教育から論壇に到るまで幅広い御活躍は周知の通りで，本校先輩としては異色と云おうか出色と申し上げるべき方で，我々のインタビューも3時間にも及んでも，益々御元気で楽しい話をお聞き出来た。先生は現在も，昭和12年に買われた当時モダンと思える木造二階建の頑丈なお家に，大の読書家らしく玄関から廊下書斎まで本本本の山に埋もれながら奥様とお二人でお暮しで，二男一女のお子様はそれぞれ独立され，時々お孫さんと遊びにいらっしゃるとのことで，悠々自適に過されておられる。健康法も特に気にされず，腹八分目で，30年来の総入歯でたまにリライニングする程度，何事も自然に任せと，にこにこしていらっしゃった。

同志社で自由と自治の精神を培う

先生は明治32年に兵庫県明石市で，医家の三男として出生され，幼時に御尊父を失い，お母様の手で育てられた。しかし恵まれた教育環境におられたことを人生の幸せと自ら認められている。

小学校は，当時日本の教育革新の途を開いた新教育のメッカとなった，兵庫県立明石女子師範学校付属小学校に入学し，男女共学で，分団式動的教育法で知られる主事及川平治先生の薫陶を受けられた。

多感な少年期は，新島譲が創立した京都の同志社中学に入学，１万坪余に赤レンガの校舎，そしてそこに於る５年間の寮生活は，まさに正木先生の人間形成の根幹を培われた。「自由と自治の精神」と「良心を手腕に運用する人になれ」と教えられ，今日に到るまでの先生の生活信条となり，物の見方考え方，そして歯科界の中で一頭地貫んじた視野の広さと洞察力の深さに結び付いている事が理解出来るところである。

ところで医者の三男坊の先生が，なぜ歯科医を選ばれたのであろうか。それはお姉様の御主人とその弟さんが歯科医であったが早く亡くなられた事から，御自分が歯科医になろうとお考えになったそうである。

大正８年当時我国では歯科の専門学校が３校しかなく，３月入試は一番古い東歯と，指定校にはなっていなかった大阪歯科の２校，そして９月新学期の日本歯科，となっており試験の早い東歯を先ず受験したが，余りのボロ校舎にいささか失望されたそうで，例の震災で焼ける前の木造二階建と，その裏に同じく木造三階建の外観みすぼらしいものだったそうで，同志社の建物敷地とは雲泥

の差があったとか。そして10日後に入試があった大阪歯科へ行って見たら，これがまた東歯よりも貧弱だったので，試験を受けず映画を見て帰って来たそうで，結局東歯に入学された。

しかし授業は充実し，教授陣も優れた陣容であった，血脇，奥村，花沢，木村哲二，福島尚純などの先生には後々迄も強い影響を受けられ，学究生活の原動力にもなったと述懐されておられる。

貧乏な学究生活そして花沢家への寄宿

先生が研究に興味を持たれたそもそもの発端は，学生臨床実習で担当になった患者から，何故甘い物が歯にしみるのかを聞かれて，即答出来ず困って，先生方に聞いても解らない，当時は余り参考書もなく，講義録位なので調べても解らない，そこで，自分でやってみようと思い立ち，医化学とX線をやっておられた照内昇助教授の所に相談に行き，実験を始めた。その結果，滲透圧の関係である事がわかり，歯科学報にも発表した。この説は10年後に米国で証明され，本にも載るようになった。そして続いて卒論に取りかかり，当時余り解明されていなかったビタミンの研究をし，ACDが歯の発育に関係があることをつきとめられた。

こうして何となくグルンドに足を踏み入れてしまったようだが，未だ学校に残る事など考えてもみなかったそうで，小林奨学金をもらいながら本代にしたりしての生活だったので，これから先も待遇の悪い学究生活等続ける気はないのも当然，ところが，たまたま卒業前にして奥村先生から呼ばれ，君，学校へ残らんかと誘われた。

その理由は，大正11年血脇先生が欧米視察の折，ニューヨークで野口先生からサゼスションを受け，将来生化学は大切な分野になるので，人材を養成すべきであると云われて来たことが発端となり，君はその教授候補として残れと云われたそうである。

正木先生止むなく口説かれ，勉強させてもらうことと待遇改善をしてもらう約束で，東歯に残ることになってしまった。待遇については研究費と奨励費を付けて，当時の助手より破格に良くしてもらった。勉強の方も，安井先生の医化学の助手となり，また内地留学として，東大医学部聴講生に入り，三田先生の血清化学の講義や，薬学部の講義も聴き，医化学の基礎力をつけられた。

一方大正12年は，大震災にみまわれ，水道橋の木造校舎は火災により全焼し，道路の反対側に仮校舎が建てられ，一部は慶応医学部を借り，先生の動物実験は国立栄養研究所で行われ，二年間ビタミンの研究に取組まれた。

震災直後は学校も経営難となり，人員整理と給料2割カット等がされ，他の大学へ移った人達も多くを数えた。先生も特別扱いされる事も出来なくなり，奨励金をはづされるようになった。そして学校から，代償と云う訳かも知れない花沢先生宅への寄宿を云い渡され，5ヶ年間花沢家の内弟子の様な形で学校に通われた。これが花沢病理学教室における，留守番役になられるきっかけとなったようで，震災が先生の方向を少し変えてしまったとも云える。

正木先生が，花沢先生の家に寄宿された頃は，花沢先生が病院長になられたばかりで，研究室の方は留守がちで，指導だけをしておられたそうで，実に謹厳な真面目な先生で，勉強は実に良くなさっておられたそうである。

また当時の学者の先生は，色々の勉強，研究を幅広くされていたようで，正木先生も東京医学校（夜学）の生理学の講義や，昼間の専門学校の補講もされ，その後本校舎が出来てからは組織学，発生学，病理学の講義と実習を担当されておられた。

そして昭和7年には，外科から松宮，保存から関根，新卒の松井と後年東歯の主軸をなす方々が，揃って花沢病理組織学教室に入って来られ先生の指導を受けられた。夜になっても3人にオルマーンの本を講義したことは思い出に残る光景だと懐しまれておられた。昭和4年助教授，同15年教授になられ，東歯が新制大学になるまで在籍され，昭和25年迄歯科病理学の講義をされておられた。

米国でも教科書に載る生化学関係の御研究から，栄養素の不足による歯と顎骨の発育障害に関

した実験的研究，斑状歯の調査と研究，口腔腫瘍の病理学的研究，等多岐に亘る業績を残された。

慶応そして日大へ

昭和14年東歯では，満州派遣のスタッフと慶応からの派遣要請と同時に話が出ていた。満州へは調査に行かれた福島秀策先生が，そのまま行かれる事になり，正木先生は東歯に籍を置きながら兼任と云う形で，昭和15年4月から慶応義塾大学医学部岡田先生のもとで衛生学の助教授として赴任された。翌年予防歯科医学研究所が新設完成され，その主任となられた。

昭和20年には研究所が空襲を受けて全焼したので，歯科学教室に移られ，臨床で患者の診療に従事しながら，医学部と専門部の学生に歯科学の講義をされ，昭和30年まで15年間慶応の講義を続けられた。

この15年間に高山，血脇両先生が学ばれた慶応の福沢精神に触れることが出来，それだけ視野を広めるのに役に立った，と噛みしめられておられる。

一方戦後歯科大学になり，次いで大学院設置準備が進められる昭和30年，日本大学歯学部大学院歯学研究科の教授スタッフとして，正木先生が招聘され赴任されておられる。そして10年余，日大の教授として学部の学生に口腔診断学を教えられた。

大学院では講義と研究指導に打ち込まれ，現在日大の主任教授で活躍されている多くの優秀な人材を育てられた。昭和41年3月に定年を迎えられ，43年間の研究教育活動の区切りを付けられた。

正木先生の社会活動と自由主義思想

正木先生と聞けば学者，研究者のイメージが強いが，御経歴の中に日本歯科医師会理事5年2ヶ月とあるのに気付き伺ってみた。もともと奥村先生の関係から日歯の歯科衛生部委員，医政調査部委員を歴任され，昭和18年1月から昭和23年3月まで理事を勤められた。また占領下の昭和21年に歯科教育審議会委員，その後，歯科医師国家試験委員，国立公衆衛生院医学科非常勤講師等を歴任されておられる。その他学会関係では，大日本歯科医学会副会長をはじめ，社会歯科医学会，口腔外科学会，保存学会，歯周病学会，歯科医史学会の理事として重きを成しておられる。

また先生の広い視野と御研究から，歯科未来学的な評論活動も有名で，昭和41年4月，日大の教壇から一気にジャーナリズムの世界に入られ，話題を呼んだことも忘れられない。日本歯科評論社主幹として5ヶ年間健筆を振われた事も御紹介しなければ先生の全てを語れない所である。

また先生は永年歩まれた歯科界について，ある著書の中で次の様なことを述べられている。「歯科医学教育機関と個人歯科医師の集まりである歯科医師会は，まだ閉鎖社会の域を脱しきれず，絶えず動き，移り行く社会の変化に対応できていないように思う。それは半世紀以上前のわたしが学生であった頃に感じた，歯科社会の幼稚な物の考え方と程度の違いはあるが，それがいまも残っている。世の中で無知ほど恐ろしいものはない。この歯科社会にみられる特殊な後進性は，何によるのであろうか。いつになったら社会常識との差が縮められるのか考えさせられるものがある。この苦言は，いまの，あるいはこれからの若い人たちの努力によって打開されるのを期待している。イタリーの諺にある“青年に老人の知恵があり，老人に青年の力があれば，なに事もできる”と云う言葉を心に留めてほしい。」そしてその期待される若者についても，学校の教育は人間をつくることにあるのであるから，一般教養をつけさせ，社会的常識を持たせなければならないと。そして今日の日本の歯科界は闊達な創造に欠け，ただ翻訳にきゅうきゅうとし，少しも日本的なものが出て来

ない。

インプラントにしても，金を取らんかなの発想は良くない，所詮生体に異物を入れる事自体問題があるのだから。

セメントやボンディングにしても，本来生きた歯にくっつくはずがない事を知った上で考えてほしい。

健康保険制度は元来修正資本主義的なもので，本来医療そのものには余り問題がないはずなのだが，ワクにはめすぎると自主性がなくなり，組合の使用人になってしまう。配分の問題が大切だが療養費払をやれば良い。

我々訪問者の質問に適確な答えが返ってくるので，とても84歳とは思えない。パイプをくゆらせて話される得意のポーズは，大正末期に紙タバコの燃える紙から出る一酸化炭素が悪いと読んだ時からだそうな。

東歯は出身者が外で学問的にも色々活躍されているので，価値ある大学には違いないが，欠点は，一旦学校を離れた人をバックアップしない所がある。他の大学に行った人達も同窓として中に入れて，常に学校とコンタクトさせるべきで，今の時代益々その必要性ありと強調されておられた。

そして高山先生も血脇先生も共に慶応大学で学んだ偉い方々で，歯科の勉強は後からされた方である事も知っておかねばならず，歯科一直線の人達だけで歯科大学を経営して行く事のむづかしさも語られた。

困難な社会環境の中での将来への展望を考える時，正木先生のお言葉は大変意義深く感じられ，我々後輩がしっかりと見極めて行かねばならぬと痛感した。そしてこの訪問を終るにあたり，先生も御健康に留意され，今後共御助言を賜る様お願いし，先生のお見送りまでいただき辞しました。

（文責　山本・桜井）

父兄会

父兄会会長退任のご挨拶

前会長　矢　島　忠　夫

去る５月28日の父兄会総会にて，会長任期が満了致しました。日頃同窓の各位には父兄会に対しましてご援助，ご協力を戴き，有難うございました。

正に大学，同窓会，父兄会は一枚岩であり，卒業した学生は良き先輩の下で，次の時代を背負う立派な歯科医としての教育をお願いすることが最高と考えます。この医師過剰の厳しい時代に益々大切な受皿となって戴くことをお願いする次第です。

次期山　清新会長の父兄会にも同様のご援助の程お願い致し，この一年間お世話になりましたお礼と共に，会長退任のご挨拶にさせて戴きます。

父兄会会長就任のご挨拶

会長　山　　清

昭和58年５月28日の父兄会定時総会に於て，矢島会長の後任として，不肖の身でありながら，伝統と，光輝ある東京歯科大学父兄会会長に御推挙を頂き，就任致しましたことは，身に余る光栄と存じますとともに，その責任の重大さを痛感している次第です。

私は昭和48年に本会の理事となり，当時の関根学長から，松宮学長，そして，この度の高木学長と三代の名誉会長（会則４条により学長を名誉会長とする）のもとで，会務の運営に参画して参りましたが，当初の会務執行情況からみて，歴代会長，役員各位の努力と，参与の諸先生方の御指導により，現在の整備された会則並びに諸規程に基づき，近代化された会務の運営ができるようになりました。私はただ矢島前会長の業績をふまえ，事業計画に則り，諸規則を守り，微力ながら本会発展の為全力を尽し度いと思います。

本会の事業には貸与共済基金制度と，傷害共済基金制度の２つの大きな柱があります。これ等の制度の健全な運営と育成を計り，それに加えて，学生の厚生行事に対する助成と，父兄各位と大学当局との円滑な連携を守ることが私ども執行部に課せられた務めだと思います。大学当局の温情ある御指導と，同窓各位の御理解ある御鞭撻を心からお願い致します。

千葉校舎に移転して早や２年が経過しました。緑に囲まれた広大なキャンパス，快適な環境のもとで真剣に勉学に励み，生き生きとしてクラブ活動に汗をかく学生諸君の姿を見るにつけ，伝統こそあれ，古い水道橋から脱皮した，鹿島理事長，松宮名誉学長，高木学長を始めとした大学関係者の英断に深甚なる敬意を表明するとともに，井上名誉会長，河邊会長のもとで，一丸となって，この大事業を後援した同窓会に対しても衷心より感謝申し上げる次第です。私ども父兄会もその原動力としての一翼を担ったものと思います。

多様化する社会情勢のもと，我々歯科界を取りまく環境も将来決して楽観を赦すことのできない現実をふまえ，小異を捨てて大同につく，大学と同窓会，そして父兄会ともども手を取り合って，名実ともに世界に冠たる東京歯科大学として，かぎりない発展を心から祈念致しまして御挨拶と致します。

名誉会長・顧問・参与・嘱託

名誉会長	高木圭二郎	学長	
顧問	佐藤新一		
〃	井上眞		
参与	高橋庄二郎	学監	
〃	中久喜喬	千葉病院長	
〃	石川達也	学生部長	
〃	高添一郎	教務部長	
〃	山本又雄	教養課目協議会幹事	
嘱託	原田清勝	学生課長	
〃	北林栄次	教務課長	

役員

会長	山清	
副会長	高橋善夫	
〃	坂本優	
常務理事（庶務）	田辺明	
〃	山本一成	
常務理事（会計）	市川明彦	
〃	野村有市	
常務理事（共済）	福田博	
〃	天野恵	
常務理事（広報）	佐藤忠男	
〃	新藤英一	
理事	池野谷博	
〃	今井芳長	
〃	岩澤正和	
〃	杉之内芳郎	
〃	浜野文夫	
〃	三宅直晴	
〃	森滋	
〃	大橋康男	
〃	亀井利男	
〃	中尾俊郎	
〃	池田漠	
〃	井上昇	
〃	川越武久	
〃	櫻井善忠	
監事	矢島忠夫	
〃	小野田実	

協力委員

北海道	杉山弘	木津弘司	
青森県	久米田俊英		
秋田県	五味武一		
山形県	松田力夫		
岩手県	久保田武朗		
宮城県	駒ヶ嶺克吉		
福島県	菅野将士		
茨城県	青木光也		
栃木県	篠原誠一		
群馬県	出井義教		
埼玉県	宮本達弥		
千葉県	杉山英世		
神奈川県	中島善和	大塩英雄	
静岡県	鈴木裕		
山梨県	秋山正		
新潟県	星野光男		
長野県	小山秀雄		
愛知県	中川博史	川崎義人	
岐阜県	古田一男		
富山・石川・福井県	島信行		
滋賀県・京都府	岡野徳一郎		
三重県	北野晋一		
大阪府・和歌山・兵庫県	山下日出郎	河本宏	
岡山県	近常良孝		
広島・山口県	川口徹		
島根・鳥取県	倉繁準之助		
香川・愛媛県	丹昭三		
高知県	横矢重彦		
徳島県	美馬孝彰		
福岡・佐賀県	田代喜久夫		
長崎県	渡邊修志		
大分県	松江貞信		
熊本県	中根俊吾		
鹿児島県	下原朝光		
宮崎県	嶽崎寿太郎		
沖縄県	阿嘉昭宗		

東京歯科大学同窓会　日中歯科医学　学術交流団
中国科学技術協会の招待で中国を訪問

本学出身同窓各位の熱烈歓迎を受ける

上海鉄道医院にて　　中央人民服が黄群华氏，開衿シャツは柳歩青氏

わが母校には戦前，多くの留学生が中国から来られ，それらの方々は今や中国で枢要な地位につき，指導者として活躍しておられる。昭和56年，母校創立90周年と千葉校舎落成祝賀会に際して，中国から同窓諸氏の来訪を得たが，その答礼も含めて中国同窓各位と中国歯科界のために，また日中友好に少しでもお役に立ちたいことを願って同窓会で学術交流訪中団を企画した。

しかし今回は先方機関との連絡に手間どり広く同窓各位に呼びかける時間がなかった為に小規模の訪中団となり非常に残念であった。小人数ではあったが北京第二医学院の柳歩青氏（昭和15年卒），上海鉄道医学院の黄群华氏（昭和12年卒）が中心となり，その他関係機関の多くの要人の方々の暖かい歓迎をうけ，充分に学術交流と友好の目的が達せられた。

在中国同窓各位の活躍を実際に知ることができ，また母校に寄せる深い信頼と愛情に感激し，母校及び同窓会はこれらの方々の期待に対しては，より一層の物心両面に亘るはげましと援助の手を差しのべる必要のあることを痛感した。

6月8日　快晴

河邊団長以下11名は成田空港を午前8時30分出発。北京へは午後1時15分に到着。

空港では日本航空北京支店長をはじめ柳歩青先生，科学技術協会の刘素浜，趙玲，呂培勤各氏の

天　安　門

出迎えを受けた。

この日は天安門広場，故宮などを見学，500年余にわたる明，清朝の宮殿の壮大さに驚く。宿舎は天安門から長安街を数キロ西へ行った静かな万尋路にある賓館(科学技術協会招待客専用宿舎)に案内された。

北京医学院玄関の一行

北京医学院にて左から 周大成氏，柳歩青氏，河邊団長

6月9日 快晴

午前10時から午後4時まで北京第二医学院の医局員，学生に対して河邊団長はスライドを使用して総義歯の集中講義を行い熱心な質疑応答が繰りかえされ多大の感銘を与えた。残りの団員は午前7時半出発。

神風運輸のミニバスで80キロ離れた八達嶺の万里の長城へ行く。

秦の始皇帝が30万の兵士と数百万の農民を動員して造ったと云う長城に登れば遙かの山波の果てまで城壁が続き，その雄大さは図りしれない。

帰途，明朝帝王の十三代の陵墓である「明十三陵」に立ち寄る。

7キロにも及ぶ参道の両側には武人や文官，ラクダや象の巨大な石像がずらりと並んでいる。そのなかで唯一の発掘調査が行われた「定陵」の地下宮殿は全て巨石で構築され，如何なる核爆弾にも耐えられる巨大なシェルターを思わせる。

いずれにせよ，故宮，長城，十三陵など我々とはスケールの異なる発想で，中国とのおつき合いには私どもの思想の尺度を大きく変える必要があるようだ。

自転車の洪水のなかをクラクションを鳴らし続けて疾走するバスで午後4時，北京第二医学院口腔医院に到着。

柳歩青院長，俞家振北京医学院人民医院教授（昭和14年卒），周大成口腔予防科主任(東歯専攻科卒）の案内で院内を見学した。

北京医学院には医療系（医学部）口腔系（歯学部）公衆衛生系，児科系，農林医学系，中医系，護理系（看護）の七系（学部）がある。

北京医学院口腔系

口腔系の外来は一日平均2,000名，診療報酬は総義歯上下で約¥3,000，ジャケット冠¥2,000，鋳造冠¥1,300だが工人(勤労者）の1ヶ月平均給与が¥9,000の物価水準に比せば相当な金額となる。

タービンや電気エンジンは全て中国製で各ユニットに装備されているが，バーは種類が少なく質も悪いとのことである。

歯科材料は全て国産だが質量ともに未完成で外貨不足のため輸入はほとんどできないそうである。

しかし中国は全て自主独立，自力更生をモットーとし，立派な製品の生産に日夜努力している様子がうかがえる。

正規なライセンスの歯科医はきわめて少数で怒濤の如く押しよせる患者の群をどのようにさばくかが中国歯科界の最大の悩みのようだ。

また同医学院では適切な文献や教科書類が不足して教育に支障をきたすことが一番残念で日本の友からの寄贈を待ち望んでいるとのことである。

その夜は上記の諸氏に科学技術協会国際交流服務処社長の華　鈞氏を加えて世界的に有名な北京烤鴨店（ペキンダック）で宴会が持たれた。

華　鈞氏は人当りもやさしく常に笑顔で歓待して下さったが，如何にも革命をくぐり抜けてきた俊秀という感じである。

料理は丸々と太ったアヒルの丸焼きをはじめ次々と間断なく皿数が続き，その間には茅台（マオタイ）酒，紹興酒，ワイン，ビールなどで何回も乾杯が繰りかえされた。

北京では丁度，全人代が開催中で当夜は要人たちの宴会と重なり，駐車場は黒塗りの大型国産車「紅旗」，「上海」で満車の状況であった。

万里の長城

6月10日　快晴

午前中天壇を見学，天壇は皇帝の祭壇で清の皇帝がここで五穀豊穣を天に祈ったという壮麗な殿堂が連なっている。昼すぎに柳歩青氏も一緒に中国民航機で上海へ。午後1時半，到着。黄群华上海鉄道医学院教授・副院長（昭和12年卒），余啓敬上海科学技術協会国際学術交流部副部長，周思賢同副科長の諸氏の出迎えを受ける。

旧フランス租界にあるホテル錦江飯店にチェックインした後，市内観光。北京と同様に人と自転車の多いのに驚く。

夜はホテルのレストランで柳，黄両先生，余副部長，周副科長を交えての宴会は和気あいあいのうちに盛会をきわめた。

6月11日　雨

午前8時半，上海鉄道医学院附属医院口腔科を大阪経由で午後7時20分，雨の成田に到着。

上海鉄道医学院の歓迎会
左から　柳歩青，胡常備院長，河邊団長，
黄群华の諸氏

上海鉄道医学院口腔科右は黄群华院長

訪問，大勢の医局員の熱烈歓迎のうちに黄先生の案内で見学，ここも外来患者で非常に混雑していた。

次で600床を有する病院を見学，ここには顎顔面の外傷，腫瘍，化膿性疾患患者が多数収容されており，たまたま高齢で心疾患を有する下唇悪性腫瘍患者の針麻酔による手術を見学することができた。

中国では医歯一元制なので口腔外科の大きな手術が行われているようだ。

昼は同病院応接室で歓迎会が催され胡常備院長，叶合情外科主任，任志良副院長も出席し鄭重な接待を受けた。

料理もスッポンをはじめ18皿に及ぶ山海の珍味が出され，質量ともに今までのうちで最も素晴しく，聞くところによると我々のために数日前から仕こみ，病院の専門の調理師，栄養師が腕をふるったとの事である。

胡　院長は専門の行政官で堂々とした体格の中国の大人を思わせる風貌である。

帰途，友誼商店に立ちより，中国特有の物産が所せましと並んでいて，一同ふところと相談しながら買物に目が血走ってきた。

上海の自由市場

6月12日　雨

午前中，工業展覧館を見学，石造りの立派な建物で中国の伝統工芸品や近代工業の製品の数々が陳列されていた。

午後は玉仏寺，預園などを見て午後2時10分発のＪＡＬで帰国の途につく。

無事訪中の目的を達して解散した――。

中国はまだまだこれからの国である。中国には石油，石炭，鉄をはじめとして地下資源は計り知れない程豊富であり，人口は10億を突破する勢である。

革命以来，種々な試練を経て，良き指導者のもとに新しい国造り，近代化が活発に進行している。

物的にも人的にも資源は豊かで，近い将来素晴しい発展を見ることだろう。

今回の訪中は短期間ではあったが指導的立場の方々と親しく接してみて，私どももこの新生中国と友好を深め，学術と技術の交流を通して両国の大いなる発展を期することが，我々に与えられた姿勢であろうと痛感した。

終りにこのたびの訪問中，常に一緒に行動しお世話下さった柳，黄両先生はじめ科学技術協会の皆さまの御親切に対し心から御礼申しあげます。

尚，帰国後，東京歯科大学学会及び図書館にお願いして，柳，黄両先生あてに歯科学報（過去2年分を含む），欧文紀要，図書館所蔵の余分な書籍，文献等を送って戴くことになりました。

訪中団氏名

河邊清治（団長）伊丹一男（副団長）福本　忍　天野　恵，伊藤　哲，杉山邦夫，福島　直，山根照人，他に河邊，福本，山根各夫人。随行員（通訳）川嶋幸夫

北京，上海でお目にかかつた東歯同窓各位

周大成（専攻生）北京口腔医院予防科主任
俞家振（昭14年卒）北京人民医院口腔科主任
柳歩青（昭15年卒）北京口腔医院院長
趙成業（昭15年卒）北京積水潭医院口腔科主任
干永年（昭15年卒）北京鉄路医院口腔科主任
鄭麟蕃（昭16年卒）北京医学院口腔系，口腔病研究所長
劉壽民（昭16年卒）郵電医院口腔科主任
曹碩中（専攻生）北京口腔医院修復科主任
黄群华（昭12年卒）上海鉄道医学院教授同附属医院副院長

（伊丹一男 記）

蝶を友として50年

——昭和28年卒の中村泰之先生——

少年の頃から蝶に魅せられて半世紀，未だにその熱やまぬ中村泰之先生をお訪ねした。

昆虫などに興味を持つ時期は一般的に小学生頃にあるが，先生も夏休みなど，宿題そっちのけで捕虫網を振り廻した。そのうち，捕えるだけでなく標本作りや専門的な採集法など年齢と共にむさぼり読む本も専門的なものへと移っていた。

戦争も激しくなった頃，南方を紹介する記事の中に必ずといってよい程，風景や蝶についての記載がありその記事をむさぼるように読みまたそれらの切り抜きをスクラップブックに貼りめぐらした。

戦火によってそれまで収集したものは全て灰になってしまったものの蝶への思いは断ち難く，水道橋時代は山岳部に在籍して山行にはピッケルと一緒に必ず捕虫網も持参して北アルプス全山はもとより南アルプス，霧ケ峯，美ケ原や秩父の山々を踏破しながら蝶の収集に努め，珍種も多く集まった。

ニューギニア産
トリバネアゲハ3種　現在は持出しが禁じられている

15年程前，新聞にマレーシア蝶採集ツアー募集の広告を発見した時には何の迷いもなく飛びついての採集行となり，これが美しい南方系の蝶との出会いの幕明けとなった。ここで英国の切手の図案にもあるアカエリトリバネアゲハを見た時の感激と興奮は未だに忘れられず，この時の思いが蝶に対する採集熱を一段とあおることになった。それ以来マレーシアをはじめとし，インドネシア，フィリピン，スリランカ，ニューギニア，ボルネオ（カリマンタン），セレベス（スラウエシ），ネパール，台湾などに蝶を追ってのジャングル行脚となった。

その結果国内種の殆んどや色鮮やかな南方種が多数納ったドイツ箱と称する51×42×6cm の標本箱が100に近い数になり，蝶に関係した資料とともに診療室のビルの空調完備の1フロアーを占拠することになった。

ここに至る迄には鰐のいる河を丸木舟で下るとか，同行の友人がコブラの穴に落ちるとか，蟻や蛭に悩まされた話などお聞きしているだけでジャングルの熱気を感じた。

現在，先生は些かお加減を損われ捕虫網を振って蝶を追う機会はないが，未だに会うことのない恋人を探し求めてさまよう日を楽しみにされている。9月になり夏休み中真黒に陽焼けした青少年達が分からぬ蝶を採って先生のところへ集まって来る日も近い。

支部のうごき

信越地域支部連合会

昭和58年度信越地域支部連合会総会

爽やかな初夏５月21日（土）５月22日（日）当番地区の松本に新潟県及び長野県内の同窓諸兄を迎え新緑のもえる上高地に於て総会を開催しました。

母校より見明清教授が学長代理として，又同窓会本部より伊丹一男副会長，中久喜喬総務理事，池上英雄理事，中野喜一同窓会事務局長の御来臨を頂き，夫々母校の現況同窓会の在り方，今後の見通しなど挨拶に添えて詳細に御報告を頂きました。その後会員よりの質問要望事項をいただきましたが，南信地区の鮨沢会員より「永年望みの大学のキャンパスも千葉に立派に出来上り世界に誇るものであるが，中に入る人が最も大切である。最近では優秀な学生が受験して合格するがその一部の学生が入学金等の経済的な問題で切角合格した入学を辞退する例が多々ある様に聞く。実に残念な事だ。優秀な学生を育てる事は将来に対して大切な事であり，この様な学徒に対する奨学金制度を設ける事を提案する。」と意見が出され，全員の賛成を得て，当連合会支部として，本部に建議書を提出する事になりました。又新潟の清水会員より「水道橋跡地」の問題の質問等が出され，それぞれ大学側より又同窓会本部よりの答があり，同窓会の益々の発展を願う活発な総会となりました。

総会終了後和やかな懇親会に移り，それこそ，山の幸で酒を汲みかわしました。翌朝は朝霧の中を三々五々の散策で残雪の穂高連峰，荒々しい焼岳のフン煙を上げている姿などの景観を満喫していただき，松本正午帰着，大名町「こばやし」にて昼食のための小宴をはりそれぞれ来年の再会を約して解散となりました。

（片瀬　俊寿 記）

四国地域支部連合会

去る5月28日（土）午後4時から高知駅前の第一ホテル（土佐の間）において母校より重松知寛教授（学長代理），住井俊夫助教授，同窓会より山脇弘副会長，津島秀雄理事，馬嶋博理事，来賓として，金子英彦高知県歯科医師会長，西野恭正副会長，桑名一彦専務理事を，お迎えし，40名の参加のもと盛大に開催された。

当番県の高知県小松三朔氏司会のもとに

開会の辞　横矢重和高知県支部長

来賓挨拶　山脇弘同窓会副会長

山脇副会長よりは特に，血脇イズムの原点，即ち，喜びも悲しみも共に分ち合う精神で，過去現在未来と生き続ける東歯魂を賞賛，更に良識ある同窓会の育成について協力方を要望された。

続いて津島理事より理事会の細部に亘る会務報告があり，なお津島理事は，地元出身者として中央で活躍中で，今回はじめての里帰りとあって，地元同窓会の熱烈な歓迎を受けた。

その後，学長代理として重松教授より松宮前学長退任に伴う高木副学長の代行メッセージの披露と，大学人事についての精細な報告がなされた。

続いて物故会員，兵藤正徳（愛媛県），岡村渭南生（高知県）両先生の御冥福を祈って黙祷。

又，本日午前中の親善ゴルフ大会は折からの豪雨をついての涙ぐましい敢斗で無事終了。

優勝者は

優勝（河邊会長杯，金子会長杯）	松木健二
準優勝	松崎　剛
三　位	塩崎光雄
四　位	田中和夫
五　位	国沢重仲

以上でした。

続いて次期当番県（徳島）米津武之助先生，御挨拶は先生欠席のため代理の御子息，武郎先生が行ったあと，坂本良作氏閉会の辞で幕を閉じた。

その後直ちに記念撮影におさまった。

当日，学術講演としては

「ニッケルクロム合金の評価及び歯科材料トピックス」と題し，スライドを使用しての住井俊夫助教授の講演は，ニッケル・クロム合金の問題点を，分り易く説明され，最後に結晶化ガラスによる鋳造冠の研究は，参加者一同に夢と希望を与え，実に近来にない新しい分野の開発として聞き入り有意義な勉強になった。

講演終了後，間もなく宴席に移動し各県の先生方御自慢のノドをきかせる，カラオケ大会もはじまり，重松教授の御尊父悦男先生，津島理事の出演もあって皆，大喜びの宴で，飲む程に酔う程に

それぞれ，意気投合した者は夜のネオン街に出ていった。また飲み語らう人，それぞれで大盛況裡に終った。

参加者

愛媛県　佐藤　一，重松悦男，馬嶋　博，増田豊，塩崎光雄，日浅敬三，久保田晃，佐藤　潔，上田尚一郎，佐伯和彦，雨岡　学，松木健二，松田公仁，菅公子，渡部幸男

香川県　近藤　清，松崎　剛，市原宗尚，橋本慶博，広瀬剛治，藤本　清，塩田尚文

徳島県　米津武郎，大野有美子

高知県　谷　俊宏，国沢重仲，横矢重和，坂本良作，金子英彦，岸　正明，山口雅男，沖　義郎，横矢重彦，小松三朔，横矢重信，田中和夫，横山美枝，友永泰弘，沖　義一，西川文雄

（沖　義郎 記）

中国地域支部連合会

去る６月18日(土)，19日(日)，鳥取県米子市皆生温泉の東光園において，同窓会中国支部連合会総会が，高木圭二郎学長をはじめ，坂田三弥教授，山脇弘同窓会副会長，杉山邦夫理事，田本淳理事の御臨席のもとに，松本歯大，東北歯大出身者数名を含め，75名という多数の会員の出席を得て，盛大に開催されました。

役員協議会に引き続いて，総会に移り，まず，今井悟支部連合会長の開会の挨拶からはじまり，山脇副会長が理事会報告のあと，同級生として高木学長の人となりを詳しく御紹介され，続いて高木学長が大学の現況報告ならびに学長としての決意をのべられました。全員万雷の拍手で学長を激励し，連合会より御祝として，青戸慧作の紙朔人形（馬）を贈呈いたしました。最後に杉山理事より同窓会の現況報告があり，倉繁準之助幹事の閉会の言葉で総会を終了いたしました。

引き続いて行われた懇親会は，高木学長就任祝賀会にきり変えられ，地元きれいどころの踊り，各県代表の会員の唄，余興などで，楽しくにぎやかに過ごし，最後は全員肩を組み１つの輪になって校歌を斉唱し，おひらきにいたしました。

翌日は同じ東光園の会議室において，坂田教授が，口腔の感覚受容器についての生理学教室の研究成果をわかりやすく講演され，参加者全員深い感銘をうけました。

こうして連合会総会は，盛会裡に幕を閉じました。

（岡本 記）

秋　田　県　支　部

去る６月25日(土)，午後２時より，アキタニューグランドホテルにて，昭和58年度の定時総会並びに学会を開催しました。本部より板垣副会長，大学より学長代理として長谷川正康教授が来秋されました。まず両先生より５月26日発生した日本海中部沖地震に対する御丁重なお見舞のお言葉を賜りました。

全国の会員の皆様方に大変御心配をお掛け致しましたが不幸中の幸にも当支部会員は皆元気で，診療に支障をきたす様な被害は殆んどなく，毎日診療に精を出して頑張っております。ここにお見舞やらお励しのお言葉を下さいました諸先生方に厚くお礼を申し上げる次第です。

さて板垣先生からは本年度の入学試験についての話があり，同窓の師弟の合格率が67％だったこと。又浅井美幸後援会特別拠出金についての特段

のお願いがありました。当支部では個人意志により賛同出来る先生から徴収することに決定しました。

長谷川教授からはこの6月1日付で発令された人事についての御報告がありました。

総会は式次第によりスムーズに進行し，案件は全べて原案通り可決，決定しました。この日新入会員2名出席されました。総会終了後学会を開催，長谷川教授による講演，「歯内療法の最近の傾向」と云う演題で約2時間の多数のスライドを使い解り易く御説明下さいました。出席した全員は学生に帰った様な気分になり熱心に聴き入っていました。学会終了後懇親会に移り新入会員も列席されたのでお互に顔を覚えて頂くため一人一人自己紹介をして頂きました。

総会出席者（敬称略）

山田寛，森山勇一郎，中村實，田中春男，黒沢秀斎，五味武一，高橋昭一，中村　勤，山本竜士，駒橋典夫，小林義禎，太田晃，佐々木高昭，佐藤俊男，赤塚のぞみ（新入会員），野呂田正一，中村哲久，駒ヶ嶺和彦，嶋田均一，武田勤(新入会員)，高橋是崇，山内　静。

クラス会だより

壬　　戌　　会

大正15年卒

大正十五年卒業の壬戌会員は八十歳前後の高齢者の為，年々本会員は次第に少なく，準会員(妻)が多く，日程もこれに応じたように，徒歩の少い，坂道階段をさけるよう誠に平々旦々たる房総一週のバス旅行となりました。

まず５月16日午前９時東京駅前に集合，デラックスバスに乗り，稲毛の東京歯科大学を表敬訪問し，羽賀副病院長の懇切なる案内のもとに病院内を見学し，木更津にて昼食をとり，雨天の為予定を変更一路鴨川に至り，イルカの曲芸を見て，かつて天皇陛下，皇太子殿下のお泊りになつた吉田屋旅館にくつろぎました。

翌17日は低気圧通過後の晴れやかなよい旅行日和で，午前９時旅館を出て，誕生寺にお参りし，次に行川アイランドのフラミンゴのショウを見，勝浦にて海の幸をシコタマ仕入れ，九十九里浜のハイウェイを経て成田山の新勝寺に参詣，帰路につき終着の東京駅の精養軒にて夕食を共にして楽しい一泊二日の旅行を終えました。

参加会員29名（内本会員13名）　　（鈴木 記）

更　　始　　会

昭和３年卒

恒例の５月総会旅行は知多半島の伊良湖伊勢志摩賢島方面２泊３日の日程で開催いたしました。

５月25日関東より14名途中三浦河村浅野大月諸兄と豊橋グランドホテルにて地元の曾田は体の不調に拘らず昼食会に参加一年振りに話ははずむ。

一同三河湾国定公園三ヶ根山頂にて大東亜戦争の責を問われA級戦犯として散った殉国七士の墓に詣で当時を偲ぶ。

碧い海を一望に観る伊良湖ホテルに到着。

昭和58年度総会を開催す。昨年５月より千葉の

成毛，茨城の湯原，新潟の永野，東京の鹿島，4先生御逝去され物故会員74名に対し黙祷をささげ御冥福を祈る。会務報告会計報告の承認を得て，大沢君の座長にて協議事項に入る。幹事の件につき更始会の灯をいつまでもとの事で田嶋，山口両君にお願いして6名と可決いたしました。秋の一泊旅行は千葉鴨川。来年5月総会旅行は沖縄と決定御健康のゆるす限り御家族多数御参加願います。夜はサモアショーを見ながら海の幸を満喫。

第2日は，高速船により一路鳥羽港へ人生生涯真珠にかけた御木本幸吉翁の美術工芸品を観賞し二見ヶ浦の夫婦岩をながめパールロード経由賢島志摩観光ホテルに旅装をとく。伊勢海老鮑等の海の幸を中心としたフラスを賞味しいつもながら田島君の奇術併し一同体の限界を感じたのか静かなお開きとなる。

第3日は晴天に恵まれ数多くの島，入江の美しいリアス式海岸の代表的な紺碧のあご湾めぐり，伊勢神宮参拝，松坂の肉屋にて閉会一同名古屋駅にてまたの日を約し解散す。

参加者，田嶋，三浦，大沢，黒田，浅野(誠)，河村，阿部，秋山，岡本，大月，曾田，西山，清水

お体の不調ご不参加の諸氏にはお体に充分御自愛の程祈ります。　　(清水 記)

三　辰　会

昭和7年卒

故原島通君の弔文を書きながらつくづく思いましたが，三辰会も会員が段々老齢化して来て毎年級友が減って行くのはどうも淋しいことです。遂に今年は逝去された方々の数が生存会員よりも多くなりました。残った我々は大いに頑張らなくてはいけないと思いながら会の 消息を 報告致 します。

まず，今年4月29日に名誉教授松井隆弘君が永年の歯科教育に尽された功績を賞されて勲三等瑞宝章を5月12日に授与されました，これは我々三辰会員にとっても名誉なことで心からお祝い申し上げます。

次に毎年の行事として過去10年以上も続いている地方旅行会(総会を兼ねて)を本年も元気な連中が集まってやりました。久し振りで東北地方に昨年の会で決まりましたので，コースを初めて陸中海岸の景勝の地を第一にして6月11日より3泊4日最終日の朝解散ということにして，大多数の方が東京出発，大宮よりの東北新幹線利用で終点盛岡集合，途中参加の方も加わり，午後12時半過ぎに，三八五交通の大型バスで出発，全員34名で賑やかに旅行を楽しみました。第一日6月11日盛岡一区界一宮古一田老(泊)，第二日田老よりバス乗車の儘の方と観光船利用の方と二つに分れ島の越

—北山崎—青森県三沢近くの古牧温泉(泊)，第三日古牧発—焼山—子の口—休屋—十和田湖観光—八幡平は残念ながら雨の為中止して一路東北自動車道へ出て南下花巻温泉(泊)。第四日朝，全員無事故で来年の会を約束して解散しました。尚，来年も多数の参加をお願い致します。2・3日の予定です。今回の参加者は下記の方々です。

（夫人同伴の方） 阿部君，大久保君，大津君，大場君，近藤君，城谷君，松岡(四)君，松岡(重)君

野上君，村居君，中野君，

（単独の方） 石田君，井比君，桜田君，佐藤(一)君，根岸君，関根君，田中(勝)君，浜上君，本間君，関君，菅野君，清水，合計34人。

以上報告致します。終りに今回の会の案内の御返事に欠席の方々で大部身体の故障の由を書いて来られました。年々増えることと思いますが元気を出して多数の方々に集まって頂ける事を願って今回の報告と致します。 （清水正一 記）

故 原島通君を偲ぶ

（昭和58年4月8日逝去 行年74歳）

4月8日午後御令息より電話あり，父君が今日午前11時に亡くなられた由，まさかと思い，念を押すが間違いない。

彼のお宅と私の家とは，川崎市と世田谷区でかなり離れているようだが，多摩川を挟んで割合に近い処だ。併しお互に我々のような仕事をしていると，意外に御無沙汰勝になるものだ。戦前，戦後を通じて，今一番印象に残るのは彼が応召後終戦で，内地帰還をしてから私の家を訪ねてくれた時のことだ。極端な栄養失調で顔が土色をしていた。その後彼の実直さ頑健さで，すっかり快復，御子息は立派に家業を継がれ何もいうことなしという暮しをしておられた。

併し人生には何が不幸になるかわからない。55年5月27日近くの幼稚園の口腔検査に「バイク」で行かれ，その帰りに交通事故に会われて頭を強打された。その直後は，それ程ではなかったのみか，55年の三辰会京都地方会には御夫婦で参加して私達を大いに喜ばせてくれた。

これは後の話だがこの際にどうしても京都へ行くのだと奥様にいわれ参加された由だ。そしてその帰路，小田原駅で彼御夫婦と私達夫婦とお別れをしたのが，彼との別れになってしまった。2ヶ月後，頭の状態はだんだん悪くなり頭の中に血腫が出来，遂にその除去のためにセント・マリアンナ病院に入院，手術後3ヶ月入院しておられた。それでかなり快復されて日常の起床にはさほど御不自由はなかったようだが，矢張り本当の健康体ではなかったようで，稍身体の不自由さは残っていた。それが本年正月風邪から肺炎を併発され入院された。3月19日に退院，自宅で養生をしておられたが，身体の衰弱は如何ともなしがたく，遂

に心不全で4月8日不帰の客となられた。奥様の話では枕許に三辰会50週年記念のループ・タイを置かれていた。私は彼の心情を察して余りあるものがある。思わず眼頭が熱くなった。

あともう少しで金婚式を迎えられる事も奥様から伺い，儘ならぬ浮世をつくづく思う。彼の逝去を心から悲しみ彼の霊の安らかであるよう祈る。

謹んで原島通君の御家内御一同様に御悔み申し上げます。　　清水正一

一　志　会

昭和17年9月卒

今年度一志会旅行は，前延世大学歯科大学学長の金　用琯先生の三年越しの要請に答えて，始めての海外旅行「韓国の旅」であった。

6月22日成田発18名，大阪発10名，計28名が夕刻ソウルに到着。ソウル最大の新羅ホテルで金君ご夫妻が我々を迎えて下さる。夕食は旧宮殿の「三清閣」で韓国式パーティー。野口幹事長の挨拶のあと，金用琯君の歓迎のことばがあり，盛大なパーティーとなる。

23日は母校と姉妹校である延世大学歯科大学を見学。金君の紹介で，尹（ユン）学長が歓迎の挨拶をされ，附属病院，大学キャンパスを一巡する。昼食は金君の招待で市内を一望するレストランで舌鼓を打ち，午後はソウル市内観光となる。同級の外君が現前田大使と中学時代の同級生であったので，外君の案内で日本大使館を表敬訪問。オリンピックに備えて道路，地下鉄，ビル工事で活気のある市街を通り，景福宮などの史跡をめぐる。夜はウォーカー・ヒルでディナー・ショウを見，カジノで一時を楽しむ。

24日。ソウル発，人間国宝，池順鐸窯を見学。青磁，白磁の美しさに魅せられる。「韓国民俗村」観光後，高速道路を一路「慶州」へ。

25日は慶州近郊観光。1200年前の新羅の都，慶州の古墳，遺跡，寺院に栄華を誇った王朝の名残をしのびつつ，湖畔にそびえる「慶州東急ホテル」で最後の夜を過ごし，26日釜山金海空港発で帰途についた。

今回の旅行に際しては，金　用琯先生の並々ならぬご援助にあづかり，又多数の方々のご参加をいただき，楽しく有意義な旅を終えることが出来ました。

参加者（単身）飯島，市島，小原，大山，小林，佐々木，島田，三村，山崎，児玉夫人，（同伴），神田，原田，藤田，藤原，外，野口，岩淵（特別参加）2名，（現地参加）金夫妻。

なお，一志会総会を11月13日（日）午後3時から高輪プリンスホテル「一条の間」で開催致します。是非ご出席下さい。　　（野口，岩淵 記）

仁　蜂　会

昭和15年卒

佐々木學君の逝去を悼む

青森の佐々木學君が逝った。6月2日朝彼の令息脩浩君より「父が今朝亡くなりました」との電話があった。柔道七段のあの堂々たる体軀の彼が，殺しても死なない様な彼が，私はしばし忙然と声もなかった。昨年彼が東歯市川病院に入院した事を知り夏頃令息に電話した所，暑い間は青森に帰って秋頃又こちらへ来るとの事，そのまま今年になり雑用に追われ見舞にも行けなかった。4月から5月の連休の中国旅行，続いて中学同窓の旅行が終れば次の日曜，家内と見舞いに行こうと話していた矢先だった。彼は2年前脩浩君が，スウェーデン留学中糖尿病が悪化し診療も不可能となり脩浩君の帰国を望んだそうである。

令息が帰国して昨年4月市川病院に入院，一時快方にむかって帰郷，再び悪化して今年2月上京浦安の葛南病院に入院，高血圧で意識不明となつて脳手術をしたが，それから3ヶ月で逝ったのである。「遺体はこれから羽田発の東亜国内航空で青森へ帰ります」との事で早速羽田に急行したが遺体は既に機内に運ばれ会う事は出来なかった。奥様や脩浩君夫妻，御孫さん達にお悔みをのべるしかなかったが，私は断腸の思いであった。性格の全く違う二人だったが，どこか気が合って彼は上京の度に我家を宿とし徹夜でのみ明かした事も度々だった。學君，君の自慢の脩浩君は立派な青年歯科医となった。来年春には千葉の勝田台で開業すると云う。どうかしっかり見守ってやって下さい。君と遊んだ浅虫の宿の思出が走馬燈の様に去来する。何卒安らかに眠って呉れ給え。

（小野寺桂吾 記）

51　期　会

昭和20年9月卒

昭和58年度51期会総会開催の報告

去る5月27日オークラホテル新潟で総会が鍋茶屋で懇親会が新潟県地区ブロック代表田村君，五十嵐(辰)君，八百枝君，長谷川君等の主催で行われた。卒業後38年ぶりに再会した学友もおり全国各地から参集一別以来の旧交を温めた。酒井代表幹事開会挨拶後逝去された鈴木君，富村君に黙祷。昨年お世話になつた中川君，安倍君に御礼を

述べ会務会計報告後来年の総会は関西阪神地区大阪府ブロック代表上脇君，岩崎君のお世話で開催と決定し岩崎君から概略説明があり多数学友と奥様の参加を要望，大いに期待したい。還暦祝記念品を木下，早川，久木留，中川，上脇，岩崎の諸兄に贈呈し拍手をおくる。越後情緒溢れる古町芸妓の伝統舞踊を観賞して美味料理に舌鼓した。佐渡旅行も晴天に恵まれ幸運だった。特に遠く立山連峰の雄大な景観を眼前にみた大佐渡スカイラインの眺望は実にすばらしかった。長く記憶に残ることであろう！お互いの健康を祈り校歌を合唱して来年の再会を約し恙く無事終了。色々と準備万端お世話になった田村君，五十嵐(辰)，八百枝君，長谷川君に心から厚く御礼を申し上げます。総員52名。

同伴：安倍，遠藤，波多野，橋本，早川，井上，片山，川村，久木留，増田(一)，中川，酒井，桜井(正)，高石，五十嵐(辰)，田村，八百枝，

単身：鮎澤，出井，二日市，芳賀，稲葉，岩崎，上脇，木下，正木，中島，中村，並木，鶴岡，土屋，田上，安井，長谷川。

（鶴岡 記）

い す ず 会

昭和25年卒

矢島力君の死を悼む

5月9日，四国の旅行先で自宅からの緊急電話により矢島君の急逝を知り，一瞬我が耳を疑った。昨年健康を害して自宅療養中，お見舞に伺い色々話をしたり，今年に入り正月に元気な顔を拝見して安心していた所である。やはり無理がたたったのか，肝硬変とかで大分体がまいっていたのだろうか。彼は昭和48年から56年にわたり長い間，国保，社保の審査員をしていたし，北多摩歯科医師会でも数多くの役員をされていた。又，一昨年北多摩が分裂して各歯科医師会が独立した時も，立川歯科医師会の初代会長として社団法人の設立に対して大変な苦労をしたものである。彼の性格として頼まれればいやと言わぬ人で，疲れても顔に出さず常にニコニコしている彼，自分の事は気にせず他人の事ばかり心配していた彼，ご家族には何んとお悔みを申し上げる言葉もないが，今は静かにお休みなさいと祈る気持である。昨年大川兄をなくし，今又矢島兄を失う。誠に貴重な存在の人物をなくしたものである。そのショックの覚めやらぬ一週間後こんどは名古屋の富田猛君急逝の訃報を聞く，云うべき言葉もなし。クラスの諸兄，我々は今が一番社会に貢献すべき時期であると同時に，一番体に気をくばる年令でもあると思う。体には十二分に気をつけよう。

さて10日の34回クラス会伊勢の山口君がいろいろご苦労して準備しています。この会報の発行後でも間に合うと思うので参加出来る方は山口君に至急ご連絡下さい。（田中 記）

一 期 会

昭和28年卒

東京歯科大学一期会卒業30周年記念祝賀会を去る6月25日に新高輪プリンスホテルにて開催したところ，梅雨の晴間にめぐまれ鹿島理事長ほか16名の先生方の御臨席を賜わり盛大に挙行できましたことを心からお礼申し上げます。

昭和21年9月市川の予科入校以来28年3月卒業にいたるまでメンバーの移動はありましたが現在会員88名中69名が出席，その上同伴夫人17名の参

加を得ました。たまたま地域における行事と重なり止むを得ず欠席の会員もあり残念でしたが会報を通じて状況をお知らせします。

総会につづき記念撮影のあと校歌演奏の中で式場に入り開会，鹿島理事長，高木学長，河邊同窓会長のご祝辞をいただき，松宮名誉学長の乾杯の音頭で懇親会となり，畦森夫妻の日本舞踊，嶺脇先生の「人間は右側通行」のお話を交えて歓談あいつづき時間延長，校歌斉唱も省き二人の山本先生の万才三唱にて幕を閉じました。

かずかずの激励のご祝辞を身に体し会員一同は和の精神に基づき益々団結を固くして母校の為ひいては歯科界の為に健斗することを誓いました。

なお卒業30周年記念誌は来年５月に完成の予定でありますのでご協力がたお願いいたします。

おわりになりましたが御来臨の先生方をご紹介すると共に重ねてお礼申し上げます。

鹿島理事長，高木学長，河邊同窓会長，松宮名誉学長，金竹副学長，山本元病院長，北村松本歯大前学長，渡邊東北歯大学長，嶺脇四郎，伊賀上謙，平井満喜男，山本又雄，外村正治，沢田允明，松井隆弘，竹内光春，鈴木弘造の諸先生方。

（敬称略）

（同伴者）相田，福田，兵藤，石塚，神尾，片倉，北村，三浦，西山，似鳥，尾上，斎藤，高松，津島，畦森，渡邊，吉田，

（単独）阿部，明石，安藤，青木，羽賀，廣岡，原，出井，岩井，泉地，鏑木，神谷，金井，勝山，川口，北原，木屋，小池，小菅，見明，三宅，森，中川，中村，永田，西村，西辻，小汲，大御，押尾，大鶴，坂田，鮫島，佐藤治，佐藤博，佐藤和，佐藤徹，関根，島野，杉浦，杉山，田所，田口，高添，嶽崎，多胡，塚本，山本勝，山本典，矢野，安江，横矢，

（津島 記）

追伸：去る７月18日に恩師嶺脇先生が逝去されました。卒業30周年記念に来られたのが最後となりました。ここにつつしんで哀悼の意を捧げます。

ハーモニカ部ＯＢ会

矢島　力兄を悼む

ここ数年来，体調が充分でなかった様子でしたが，強固な意志で好きな酒とタバコを絶ち摂生していたにも拘らず，病は忍寄っていたのです。しかし生来頑強でガッチリした体軀を考えると，必ず快方に向うと信じておりました。今年４月，手術をされたのですが，時既に遅く，５月８日遂に不帰の人となってしまいました。

君を偲ぶには学生時代に遡らねばなりません。昭和21年戦後，東京歯科で最初に部活動が始まったのはハーモニカ部であったろう，と思います。当時焼野原で学生の気持も沈み，楽器も全く手に入らぬ時，水道橋校舎に残されていた旧ハーモニカ部の楽器を基として伝統あるハーモニカ部を再建し，戦後の黄金時代を築き上げたのです。

君はドラムを担当していました。これは非常に重要なパートで部員は君の打出すリズムのリードに依って演奏をしたのです。そのドラムは派手な演奏ではなかったのですが，学生らしく正確で，難かしい所はしっかり抑えて器用に熟していました。私の耳には今でも地下の部室で一人コツコツ練習していたドラムやシンバルの音が鮮明に残っております。隔週学内での金曜コンサート，新入生の校歌指導，学校行事への協力，虫歯予防週間には小学校を廻って演奏会，等それは盛大なものでした。懐かしい想出は尽きませんが，君がズバ抜けて頭角を顕はしたのは，マネージャーの役目でした。学内，学外との接渉，部の経済問題，部員の個人的問題等，部全体を一つに纏めて引張って行く統率力は重戦車の様でした。

此の持って生れた才能と高邁な人格は歯科界に充分発揮され，立川歯科医師会々長，東京都社保，国保，両支払基金の審査員，都歯代議員等，の要職に就かれ，その激務に追われた事が生命を縮めた結果になってしまったのではないかと思います。又野球も好きで北多摩歯科医師会と他県との野球交流にも力を尽くし，歯科医業も立川高島屋デパートにて30年近く盛業を続け，東歯大矯正医局には多年在籍し，その道のエキスパートである事は有名で，私の矯正の患者も随分お世話になりました。

総ての人々にリキさん，の愛称で慕われた偉才を失った御家族の悲しみは如何ばかりでしょう。思えば37年間の長きに亘つた親友でした。お見舞の際，入院中では長女の東歯大卒業式にも出席出来ない，と嘆いていた事が忘れられません。そして最後迄御長女の卒業写真をベッドから離さなかったと聞いております。御長男も東歯大専２に在学中ですので，きっと父上の遺業を立派に継がれる事と思います。

御家庭にあっては良き父親，良き夫であった君も今や要職から解放され，再びドラムを叩いて残された者や，御家族に生きる道を教示して呉れるでしょう。ドラムやシンバルの響きがもうすぐそこ迄伝わって来ている様な気が致します。

ＯＢ一同哀悼の意を表するとともに，御冥福を心からお祈り申し上げます。

（25年卒　中尾俊郎）

すいどうばし

平井名誉教授随想集

「菅　野」毎日新聞社から出版

平井満喜男名誉教授は皆さんも御存知の通り，昭和23年仙台陸軍幼年学校の教官から復員，我東京歯科大学予科教授に赴任された。その後予科が進学課程となっていった市川の校舎で昭和53年迄の30年間，さらに５年間の非常勤をへて本年３月まで母校で教鞭を取られておられた。この間35年約６千名にのぼる学生に大切な人間形成期である２年間を単に英語教育者と云う事だけにとどまらず，広く人生学，人間学を教えられた。戦後の東歯の名物教授の最右翼とも云える先生ではなかろうか。

今回先生の満70才の誕生日をお迎えになるにあたり，「古稀の記念」として，予科，進学課程のあった市川の菅野（すがの）に対する限りない愛惜をこめた随想集を毎日新聞社から出版された。

そして今回の出版を記念した集いが，去る７月17日夕，先生御夫妻を囲み東京プリンスホテルで，ごく内々に，それでも百数十名の出席者をみて催された。

本書の内容の一部を御紹介致しますと，先生が下葉露やクラス会誌，部報各種記念誌などに投稿された原稿の中から懐しいものばかりを選んでまとめられております。

- ○　市川の町並や人情ばなし
- ○　卒業して行った数々のクラスの話
- ○　同僚の先生の話題や御自身のこと
- ○　お家の話や御子息への手紙
- ○　東歯での生活，そして菅野への訣別
- ○　キャンバスについて　　etc ……

平井満喜男随想集　（二）

題　名　「菅野（すがの）」
発　行　７月17日
装　幀　菊池　豊（八期生）
四六判　240頁
定　価　1,500円（送料共）

※　成る可く地域ごとにまとめて注文していただきたいのですが，勿論単独でも受付けます。

著者の住所
（〒274）船橋市習志野台6—5—15
平井満喜男
（電）0474—66—5495

松井名誉教授の叙勲に想う

生原醇治（昭和23年卒）

稲毛の新しい学舎は未だ見た事もないだけに，憧れはあっても愛着はわいて来ない。まあそんなものかも知れない。

一年に何回か上京する。学会の時もあるし，自称卒研――？で上京する事もある。それが不思議なもので，三崎町や水道橋の近辺に全く用事のないときでも，毎回水道橋近くのビジネスホテルに投宿する。安いと言う事が第一ではあるが，勝手知ったあの界隈で夜を越すことに，田舎から上京した身には限りない安堵感がある事もいなめない。帰趨本能かも知れない。高級レストランもないし，赤い灯，青い灯もあまり目立たない。学生街なんだから当り前と言えば当り前の話ではある。あのぐるぐる目の前に廻って来る一皿いくらの安い“すし”で空腹を満たす事も出来るし，立ち喰の“そば”で満腹感をあじわう事も出来ると言うものである。とにかくやすらぎが身を包んでくれるのである。

――休講の時間には，いや，休講の時でなくても，あの古本屋街は屢々さまよつたものである。神保町のあの古本屋街は今行ってみても，青春の残渣が漂っているようで懐かしい。あの頃――神保町を右手に曲った所には二階建ての大きな巌松堂があったし，その向いには岩波書店があったっけ。古本屋には静寂があった。そして独特の臭気もあった。冷気もあった。奥の方には無愛想の主人が，眼鏡越しに人の顔をじろっと見たりしたものであった。40年近くも前の事である。

――神保町をさまよって水道橋の方へ戻れば，左手には東京歯科の古色蒼然とした校舎が目に入る。戦後も40年近く経った今，四辺の建物とはいささか調和のとれない，暗い建物である。聳え立つと云うよりは，恐縮していると言ったような，場違いの感を受けなくもない。あの頃も決して教育環境の良い場所とは言えなかった。都電が絶え間なく通るし，ポイント切替えのひびきは聞えてくるし，朝夕は急行の国電が道路一本へだてた頭上を轟音けたたましく往き来して騒々しかった。水清くして魚住まずさとか何とか他校の友人には言ったものである。今神保町の方からもどり乍ら見ると，都電こそ廃止になったものの，歩道橋が校舎の玄関をさえぎらんばかりに立っているし，ビラがはがれ落ちて四辺を汚すし，今も昔と変らない環境である。見上げると，校舎の端の半円形の突出した部分がまっ先に目に入る。建築学上は何て言うのか知らないが，吹きぬけの様に硝子張りの部分が目に入る。一階は会議室で三階は手術室，二階は細菌，病理，組織の実習室であった。あの一角を見上げる度に私は甘酸っぱい想い出をかみしめるのである。

――それは組織実習の時の事であった。松井教授と榎本先生だった。顕微鏡の視野の中に真黒いものがドスンと坐って居て，何だろうと思つたら血管であったり，全くのチンプンカンプンである。顕微鏡をのぞき乍ら模写しては腕時計をぬすみ見するようにして時の経つのを待ったものである。或る時，単一神経繊維の模写図が黒板に張り出された。セロテープのない時代，スライドなんて考えられない時代，模造紙に墨で書いて，画鋲で止めたものである。教授の説明があって，最後に，何か質問はないかとぐるりを見廻した。何が判らないのかそれが判らないのだから質問の仕様がないと言うものである。それなのに，おそるおそる私は手を上げてしまったのである。だまっていればもう終るのになんて事をと言った目つきと，あれ？，あいつが松井教授に質問するんだとさと言った奇異の目つきとがいっせいに私にそそがれた。瞬間，手なんか上げるんじゃなかったと後悔

の念が全身をつき抜けた。が，もうおそい。後のまつりである。“ハイ”と質問を促すような教授の目と視線があってしまった。あのうと言ったが後が続かない。間違って手を上げてしまったのですとは今更言えるわけもない。おそるおそるとはまさに此の心境であろう。だからキミはドイツ語の勉強も駄目なんだと叱声が頭上にとび，恥の上塗りを満座の中でさらすのかと，蚊の鳴くような声で質問したのである。

「単一神経繊維と言えば単数なのに，説明にはFASERN と複数になつてますが」私はひといきに言ってしまった。又後悔の念をかみころした。デル，デス，デム，デンがやっとの身で，単数も複数もあったものではない。予測した教授の叱声を今か，今かと観念した。ところが，松井先生は，「うん，そうだったな」とおっしゃって，赤いチョークでNを消してしまわれたのである。単一神経繊維のえがかれた大きな模造紙は，何年も，何回も使用されており切れそうに弱々しくなって居た。赤いチョークで消されたNの字だけが，やけに新鮮なものに目に残った。FASER でよかったのである。あれから40年近くが経つ。勿論現在の講義には使われていないであろうが，怠惰な学生生活の中で，まるで異質の物のようにはみ出して想い出されるのである。

そんな事と前後して，松井教授の，東大審査会をパスした学位論文の詳細が発表された。「象牙質基質特に――」までは覚えて居るが，その後に，オーエン氏外形線とか，何とか紋理とか一杯続いたようであったと思う。おちこぼれの頭で判るような論文ではないがとにかく読んだ。膨大な量の参考文献は百編以上だったのではなかったろうか。小学生が哲学書をひもとくようなものであった。それから間もなく，「歯とからだ」と言う啓蒙書もお出しになった。黄色の縦書きの，童画も入った本であった。どちらも大切にしておいたのに戦火の中で消えうせてしまった。

春雨秋雨の40年が流れた。おちこぼれの学生もいつしか歯科医師会の末席を汚している。遠き想い出ではある。

先般，叙勲の栄に浴された松井先生に祝意を表すと共に，益々の御健勝を祈念するものである。

キ……リ……ト……リ……線

第12回　同窓会全国ゴルフ大会参加申込書

所属支部名＿＿＿＿＿＿　氏　名＿＿＿＿＿＿　卒業年度＿＿＿＿＿＿

住　所　〒＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　TEL（　　）　―＿＿＿＿

生年月日＿＿＿＿＿＿

会費26,000円也を添え申込みます。

◆へんしゅうこうき

☆ 高木新学長が就任され母校も新体制で出発され，愈々基礎固めの時代に入っていますが，長い東歯の歴史と伝統を守りながら新しい時代に副った飛躍を期待します。新学長は先日千葉校舎における同窓会理事会で今後の運営に関してはお互に信頼し合って行きたいと挨拶されました。人を信じ助け合って行くことの如何に大切である事かをしみじみ感じます。新学長の御活躍御健康を祈ります。

☆ 東京歯科大学施設整備資金募金寄附者銘板除幕式が７月16日行れ，全国同窓会々員の母校愛の表れが永遠に記念されることとなりました。10億円の目標額を越える募金のあったことは母校と同窓との繋がりの強さの現れで深く感銘を受けました。

☆ 千葉校舎の広大で立派な姿緑したたる樹々が風情をそへているのを見て，年と共に栄え行く母校を夢見ることができたのもしく感じました。水道橋も千葉の校舎も建築当時に高く評価されていると聞いて誇らしく思う次第です。

☆ 緑化と募金を計画された井上眞名誉会長が先日逝去されましたが，先生の先見の明とその実行力の偉大さを今更ながら感じると共に御冥福を心より祈り，先生の遺志を受けて努力をしたいと思います。母校と同窓会の愈々の発展を祈りつつ。（平　佐武郎）

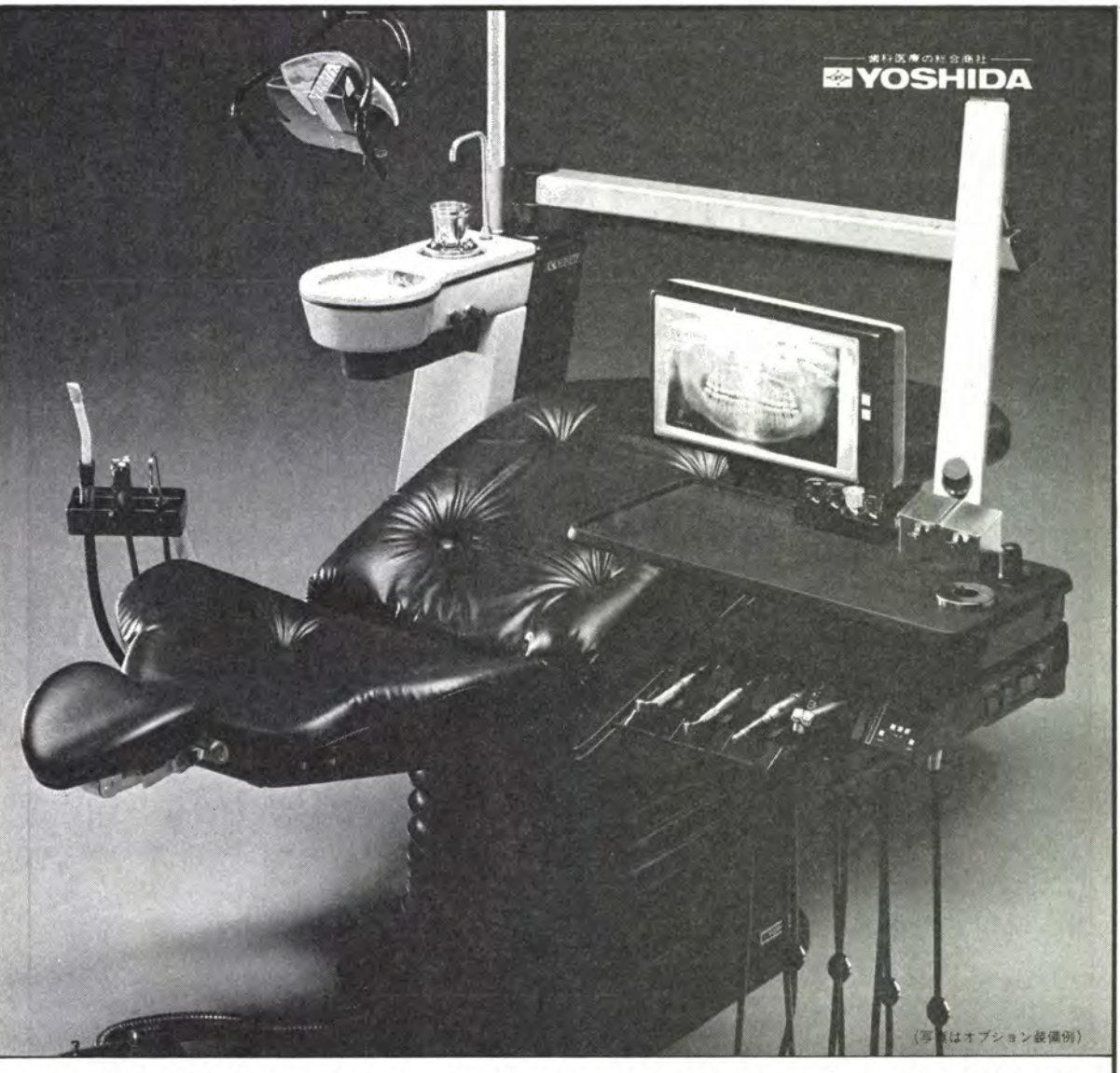
広報担当理事：梅田昭夫，溝上隆男，喜田正史，伊藤　哲，仲谷純三，平　佐武郎，馬嶋　博，野上順平
広報部会報編集委員会　委員長　櫻井善忠，副委員長　藥師寺　仁，
委　員　中久喜　喬，中村泰之，山本啓介，古川　正，松井恭平，林　量一

昭和58年８月15日　印刷　　編集・発行人　梅　田　昭　夫
昭和58年８月20日　発行　　東京歯科大学同窓会
東京歯科大学同窓会会報　第 214 号　　〒101　東京都千代田区三崎町２－９－18
電話（03）262—3421（内線 226）
（03）264—4859（直通）
印刷所　一世印刷株式会社
東京都新宿区下落合２－６－22
電話（03）952—5651（代）

キ……リ……ト……リ……線

第12回ゴルフ大会参加者
通　信　欄

歯科医療の総合商社
YOSHIDA



(写真はオプション装備例)

ニート感覚の極致に生まれたハイグレード・バージョン

「感性の時代」と呼ばれる中で、見せかけを超越した機能とデザインをもった「本物のユニット」への指向——余分なものを取り去り、極限まで整理されたかたち——このニート感覚に裏付けられた未来指向のユニットとして誕生した「エクシード」。
UFOシステムと名付けられたそのニューコンセプトの斬新さと機能性は、ドクターの熱い視線を独りじめしています。ここに登場したハイグレード・バージョン「エクシードGX」は更に一歩進んだ機能を装備した、ヨシダの第2の回答なのです。

エクシードGX
EXCEED
GX
UFO SYSTEM
United Functional Operation System
新発売

株式会社ヨシダ
〒110 東京都台東区上野7-6-9 ☎03-845-2911(代)

株式会社吉田製作所
〒130 東京都墨田区江東橋1-3-6 ☎03-631-2191(代)

資料請求券
エクシードGX

新製品

ハイテクニックを追求しつづけるオサダが、最新のエレクトロニクス技術をデンタルユニットに取り入れ、先生の診療を快適で高能率、メンテナンスの楽な簡潔化を計ったユニットに完成させました。

IC回路の採用により、例えばワークテーブルがぐっと薄くなり、先生方の胸上配置を可能にしました。又、ユニットの生命であるインスツルメントは全てオートクレーブ可能となりFPシステム(先取り優先)採用により、先生方がご使用中でも、他のバーの交換を流れに沿って助手が交換できるシステム等……技術に生きるオサダが、エレクトロニクスを診療機器に集結させ、先生方のご要望に応え、ここに登場しました。

※全国オサダショールームにてお手に取ってお試し下さい。

オサダの歯科機械
長田電機工業株式会社
東京都品川区西五反田5-17-5 ☎03(492)7851(代)

歯内療法が楽しくできる!!

糊剤根管充塡材

ヨードホルム・水酸化カルシウムパスタ

ビタペックス®

［適応症］

抜髄および感染根管治療後の根管充塡に応用します.

［特　長］

- 特殊な方法でパスタ状に調整されていますので操作性に優れ，専用のシリンジで狭小な根管内にも緻密に充塡できます.
- エックス線造影性に優れ，長期にわたり変質しません.
- 根尖歯周組織の治療に対して好影響を与えます.

本格的な根管充塡用シーラー

エンドドンティック　セメント

デンタリス®KEZ

ケー　イー　ゼット

デンタリス KEZ は根管充塡専用のシーラーとして開発された遅硬性のエンドドンティックセメントで，当社の新製品として登場いたしました.

特　長

- 根管壁およびガッタパーチャポイントに対するヌレが良く，根管腔を緊密に閉鎖します.
- 練和後根管内では5～7分で硬化しエックス線造影性を示します.
- pHをアルカリ性に調整し，炎症巣の鎮静化をはかったセメントです.
- ガッタパーチャポイントなどのシーラーとして適切です.
- ビタペックスとの同時積層根管充塡に際しては，硬化するセメントタイプの**デンタリス KEZ**をお奨め致します.

ネオ製薬工業株式会社
〒150 東京都渋谷区広尾3-1-3　Tel.(03)400-3768㈹

金属焼付ポーセレン用金合金

KIK HARD II

- ●硬度が210Hvと硬く、長いブリッジ・うすいクラウン等にも最適です。
- ●流動性が優れており容易に鋳造できます。
- ●焼成回数を重ねてもメタルの変形はほとんどありません。

主成分　金73%・銀2.8%・白金13%・パラジウム9.7%

諸性質　●溶融温度1240～1290℃　●比重17.8　●鋳造収縮1.34

	硬度Hv	引張強さkg/mm	伸び%
鋳造時	180	44	5
グレーズ時	210	46	5
硬化時	225	48	4

KIKポーセレンの他VITA・CERAMCO等のポーセレンに使用できます。

石福金属興業株式会社

AXIS 90

DENTAL CHAIR

世界ではじめてパワー(油圧電動)ヘッドレストを実現。

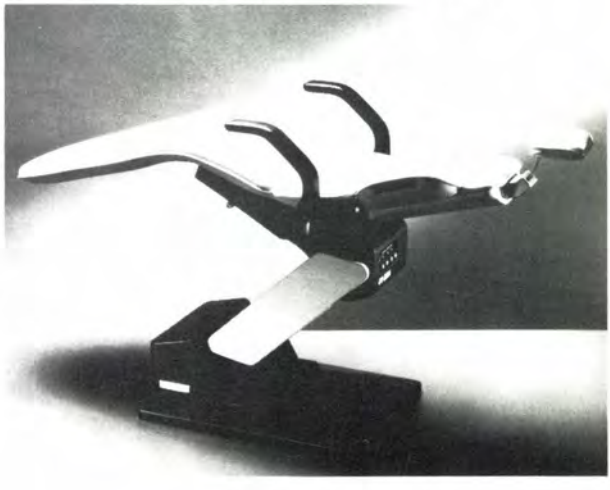
スイッチひとつで、ヘッドレストが動きます。

タルチェアーの命といわれるヘッドレストが、スイッチひとつ
作できる〝電動〟になりました
はラクな姿勢で口を大きく開けられるようになり、さらに
ーは自然な姿勢で、より広い口腔内視野が得られるように
たアクシス〝パワーヘッドレスト〟電動油圧技術とIC技術
品した、90年代志向の新しいデンタルチェアーです。

な仕様

高 / 420mm●ストローク / 380mm●チルト / リクライニング連動チルト
●プリセット / 2ポジションメモリー方式●オプション / フートスイッ
降・寝起)

※標準価格 980,000円



タカラベルモント

本社●大阪市南区島之内2-13-22 ☎(06)211-2831・大代表
支社●東京都港区赤坂7-1-19 ☎(03)403-0311・大代表

診療効率を高める究極の機能――ニュー スタンダード

診療の効率化が叫ばれているいまこそ、水平位診療の原点を極めたスペースラインが真価を発揮します。ニュースタンダードは、最新の電子技術で内部のメカニズムをグレードアップ。さらに、バキュームフィルターがハウジングの外側についてメインテナンスが楽になりました。

標準インスツルメント	ニュースタンダード	ニュースタン
エアーベアリングハンドピース アストロン〈AT-C〉	● ○	● ●
アストロンホース回路	●	● ●
マイクロモーターハンドピース トルックス〈TR-2N〉	●	●
スリーウェイシリンジ	● ●	● ●
バキュームシリンジ	●	●
サライバエジェクター（シャットオフバルブ付）		●

○は予備ハンドピースを表わ

（外観および仕様などは改良のため予告なく変更することがありますのでご了承

21世紀のデンタルライフをひらく　株式会社モリタ　東京都台東区上野2丁目11番13号　〒110　☎(03)834-616

株式会社モリタ製作所　本社工場・京都市伏見区東浜南町680番地　〒612　☎(075)611-2141／久御山工場・京都府久世郡久御山町大字市田小字新珠城190　〒613　☎(0774)43-75
株式会社モリタ東京製作所　埼玉県与野市上落合355　〒338　☎(0488)52-1315

時　代　へ　贈　る　GC

新・金合金。

白金加金の物性と
優美な金色を低コストで実現。

ルックス50M.C.の金・白金族元素含有量は50%。
しかし、銀やインジウム等の効果的配合により、
物性はA.D.A(米国歯科医師会)が定める
金合金タイプIVの規準を楽々クリアしています。
特に硬化熱処理の効果が高いので、
単冠はもちろん、ブリッジやクラスプ、
バーにも安心。
これからは変色の恐れを知らぬ
優美な色調を、
より手軽にご利用いただけます。

歯科用鋳造用金合金

ジーシールックス50M.C.

(金、白金族元素含有量50%)　(金40%)

ルックス50M.C.専用金ろう

ジーシールックス50ソルダー

《物性比較》

試験品・規格 ＼ 試験項目	引張強さ(kgf/mm²)		伸び(%)		硬さ(Hv)	
	軟化	硬化	軟化	硬化	軟化	硬化
A.D.A.規格 TypeIV	—	63.5以上	10以上	2.0以上	150以上	220以上
ジーシールックス50M.C.	54	76	30	4	168	270

■硬化熱処理の効果も大きく広い用途にご利用いただけます。
■溶融点が低く(825℃)、鋳造性の良さは従来の金合金以上。黒色酸化被膜も生じません。
■くり返し鋳造による物性劣化がなく合金を無駄なく使えます。

G-C DIC デンタルインフォメーションセンター
●北海道DIC011(271)7373代●東北DIC0222(71)8757代●東京DIC03(816)6480(直)●名古屋DIC052(703)3231代
●大阪DIC06(771)4682代●広島DIC082(255)1771代●九州DIC092(441)1286代
●新潟出張所0252(84)6622●徳島出張所0886(25)8214●長崎出張所0958(47)6104●鹿児島出張所0992(68)0070

而至歯科工業株式会社

歯科技工学科

理事長 歯学博士 大塚 昌助

校 長 歯学博士 大塚 弘介

東技専

東京歯科技工専門学校

TOKYO DENTAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

〒141 東京都品川区西五反田5－1－10(東急目蒲線不動前徒歩2分) TEL 03(492) 4221(代)

Shiken Blue Sky Series

N. S. D.

キンバレイシリーズ第2弾!!

大好評のキンバレイ20Eよりさらに優雅で温かみのある黄金色と光沢。さらにひとクラス上級で高カラット金合金に代りうる物性を有し、特に鋳造性・適合性・操作性が抜群しかも価格は高カラット金合金の½以下。

歯科鋳造用金パラジウムインジウム銀合金

キンバレイ26 PAT.P

新発売

SHIKEN 日本歯研工業株式会社

本 社：〒141 東京都品川区西五反田5-1-10 ☎03(492)0927(代)
支 社：〒553 大阪市福島区海老江1-5-67 ☎06(458)7071(代)
上野営業所：〒101 東京都千代田区外神田6-10-6 吉岡歯材ビル2F ☎03(831)7031・7033